

渡邊 裕一、大槻かおり、緒方義広、星乃治彦、山田良介、後藤富和

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：月・5 時限 試験時間割：2025/01/22 5 時限

--- 概要 ---

本講義では、様々な分野から講師を招き、それぞれの専門的な立場から「グローバルな平和論」に関する講義を行ってまいります。キーワードは「戦争と平和」「核兵器・原発」「東アジア」です。いずれも重要かつ明確な答えのない複雑なテーマですが、それぞれを「自分の問題」として捉え、多様な視点から掘り下げて考えることのできる能力を身につけて下さい。

まず総論として、現代の国際社会で大きな問題となっている「戦争と平和」についての概略を学んだうえで、自然科学の成果にもとづいて核兵器の原理と作用・危険性について学びます。核兵器について考えるさい、「ヒロシマ・ナガサキ」の歴史的経験をどう捉えるべきかという重要な問題が私たちの前に立ちまわります。「ヒロシマ・ナガサキ」の現時点における世界的な意味を浮き彫りにするため、「記憶」の問題として実際の被爆者の「語り」に耳を傾け、それを「語り継ぐ」ことの重要性を考えてもらいます。戦争の記憶を考えるうえで、戦時性暴力の問題も避けておられません。そこで、「戦争とジェンダー」についても学びます。次に、これから東アジアと友好的な関係を作り上げていこうとする観点から、「被害者」の観点と同時に「加害者」としての観点をいれて日本の「過去」の問題を扱います。そのさい、日本の平和認識だけでは限界がありますので、グローバルな視野を培うために、ここでは韓国や中国など東アジアからの視点を重視して考察を深めます。また平和という観点から憲法9条の問題を取り上げ、さらに共生という課題を考えるために在日コリアン・朝鮮学校の歴史と現在についても学びます。最後に、核の平和利用といわれる「原子力発電」について、その歴史を踏まえ、フクシマの原発事故とその後について学びます。

以上の講義全体を通じて、いま私たちが生きている「福岡」という地域がどのような位置を占めているのか、過去、現在、未来を見据えながら、グローバルとローカルの双方の視点から考えていただきたいと思います。

* 実務経験がある教員について

本講義では、各分野で活躍され、実務経験を有する教員にも授業をご担当いただきます。第11回、第12回をご担当いただく後藤富和先生には、弁護士として自ら関わってこられた「中国人強制連行・強制労働事件」について講義いただきます。その他、被爆体験者のゲストスピーカー等もお招きする予定です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業の進め方や学習の方法

本授業は、オムニバスの講義形式にて実施します。毎回の授業内容を確認するために Moodle を用いた課題提出に取り組んでいただきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

「戦争と平和」「核兵器・原発」「東アジア」について、歴史的な経緯を踏まえた客観的な知識を身につけ、その今日的な問題点や課題について正確に理解することができる。(DP1-2)(知識・理解)

現在の日本社会でも多様な見解が存在する諸問題について、各分野の専門家による解説を踏まえ、それぞれの歴史的な背景や経緯を理解したうえで論理的・客観的に思考することができるようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

グローバルおよびローカルの両視点から、「核兵器」や「平和」のありかたについて考えられるようになり、問題の解決や将来的な展望について自らの言葉で発信することができるようになる。(DP4-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

日ごろからニュースや新聞に接し、問題意識をもって授業に臨んでください。予備知識や予習は特に必要ありませんが、毎回の授業後は、各自で内容の復習を行い、授業の内容の正確な把握に努めてください。疑問点や質問等があれば、Moodle課題にご記載ください。(180分)

--- 成績評価基準および方法 ---

毎回の授業後に提出するコメントシート30%、定期試験70%により評価します。試験では、授業で扱った各テーマについて、今現在何が問題となっているかを正確に理解し、問いに対する答えを論理的・客観的な文章で説明できているか否かを評価の重要な基準とします。

--- テキスト ---

特になし。授業では適宜レジュメを配布します。

--- 履修上の留意点 ---

第1回目の授業で注意点を述べます。私語・飲食は厳禁です。欠席・遅刻に注意し、各講義のあとは復習を忘れないようにしてください。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）（渡邊裕一・本学人文学部）
 2. 総論 戦争と平和（星乃治彦・本学名誉教授）
 3. 自然科学から見た核兵器（大槻かおり・本学理学部）
 4. 自然科学から見た核兵器（大槻かおり・本学理学部）
 5. 語り継ぐ被爆体験（渡邊裕一・本学人文学部 / ゲストスピーカー・岡崎満也さん）
 6. 戦争とジェンダー（星乃治彦・本学名誉教授）
 7. 中間まとめ（渡邊裕一・本学人文学部）
 8. 新しい平和運動（渡邊裕一・本学人文学部 / ゲストスピーカー・木村公一さん）
 9. 東アジアの歩み 日韓関係その1（山田良介・九州国際大学）
 10. 東アジアの歩み 日韓関係その2（緒方義広・本学人文学部）
 11. 中国人強制連行問題（後藤富和・弁護士）
 12. 憲法9条の現在（後藤富和・弁護士）
 13. 在日コリアン・朝鮮学校の歴史と現在（渡邊裕一・本学人文学部 / ゲストスピーカー・金敏寛さん）
 14. 原子力発電の歴史（渡邊裕一・本学人文学部）
 15. 新しい災害リスク フクシマ原発事故とその後・授業アンケートFURIKAの実施（渡邊裕一・本学人文学部）
- * ゲストスピーカーのご予定や進捗具合によって変更の可能性がございます。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/f98ehtaagj0rmho291bu7cpsciiv6k9r>)

渡邊 裕一、大槻かおり、緒方義広、星乃治彦、山田良介、後藤富和

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.「戦争と平和」「核兵器・原発」「東アジア」について、歴史的な経緯を踏まえた客観的な知識を身につけ、その今日的な問題点や課題について正確に理解することができる。（DP1-2）（知識・理解）

2.現在の日本社会でも多様な見解が存在する諸問題について、各分野の専門家による解説を踏まえ、それぞれの歴史的な背景や経緯を理解したうえで論理的・客観的に思考することができるようになる。（DP2-1）（態度・志向性）

3.グローバルおよびローカルの両視点から、「核兵器」や「平和」のありかたについて考えられるようになり、問題の解決や将来的の展望について自らの言葉で発信することができるようになる。（DP4-1）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

辻部 大介、堺 雅志、浦上 雅司、西村 道也、藤井 雅人、太記 祐一、田上 響、東原 正明

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・5時限 試験時間割：2025/01/22 5時限

- - - 概要 - - -

専門分野を異にする8名の教員(人文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、スポーツ科学部所属の専任教員)が、おのおの1~2回の講義を担当し、地中海世界から北方ヨーロッパ、中央ヨーロッパにおよび各地域に、また、地理、歴史、美術、宗教、言語、スポーツ、政治、建築といった諸分野にまたがる、ヨーロッパの社会や文化の諸相を、学生の知的欲求にうったえうるさまざまな個別的事例に基づいて講義します。現代ヨーロッパだけでなく、現代ヨーロッパを作りあげる基盤となった古代、中世、ルネサンスといった過去の時代の社会や文化についてもとりあげていきます。個々の事象を例示するにあたっては、日本との比較・対照をうながし、日本の社会や文化の現状に対する問いかけを動機づけます。初回(スタートアップ授業)と終回の授業では、統括責任者2名が、各講義の連関および授業全体の意義について受講者それぞれが考察をめぐらすための視点を提供します。

なお、東原の担当回(第12・13回目)においては、在オーストリア日本大使館専門調査員としての実務経験によって得られた、現代オーストリアの諸政治勢力の動向等に関する調査結果を活用した講義が行われます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、各教員が作成した講義資料(主としてスライド)をもとに、講義形式で行います。毎回の授業後に、Microsoft Formsを用いてミニッツペーパーを提出してもらいます。そこで寄せられた感想や質問について、授業冒頭で簡単なフィードバックを行うこともあります。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

ヨーロッパ社会のありようをヒントに今後の日本社会について考えていくための視座を得ようとする志向性を有している。(DP1-2)(態度・志向性)

ヨーロッパについて、地理・歴史・美術・宗教・言語・スポーツ・政治・建築の諸分野にまたがる幅広い知識を獲得している。(DP2-1)(知識・理解)

講義で身につけた知識をもとに、自らの考察を明瞭に記述することができる。(DP4-1)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業時にとったノートを読み返し、授業内容の要点を頭の中で整理する。キーワードについては、自分の言葉で説明できるようにする。(90分)

よりくわしく知りたい点を書き出し、インターネットや図書館で調べ、わかったことをノートしておく。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

平常点(毎回の授業の終わりに記し提出してもらうミニッツペーパーによる)30%、定期試験の成績70%の割合で評価する。平常点において到達目標のうち態度・志向性の到達度を、定期試験において知識・理解および技能の到達度を、それぞれ測る。試験問題および評価基準は、1)8名の講義担当者それぞれの講義内容をどれだけ理解し、具体的な事項をどれだけ知識として定着させたか、2)15回の講義内容をふまえて、現代のヨーロッパと日本との関連を内省するための観点をどれだけ獲得できたか、を問うものとする。

- - - テキスト - - -

使用しない。必要に応じて、各講義担当者が資料を配布(FU_Box内の所定のフォルダにアップロード)する。

- - - 履修上の留意点 - - -

各回のミニッツペーパーは、グループウェア上でのMicrosoft Formsを用いたアンケート形式により提出を求めます。回答フォームのURLを毎回「授業管理」のお知らせによって通知します。配布資料は、FU_Box内に作る共有フォルダに、授業当日の朝までにアップロードします。各自ダウンロード・印刷のうえ授業に臨んでください。

- - - 授業計画 - - -

- 1 シラバスの説明・オリエンテーション(スタートアップ授業)(辻部・堺)
- 2 ヨーロッパの成り立ち 中世まで(堺)
- 3 美術遺産とイタリア(浦上雅司)
- 4 カトリック教会とイタリア(浦上)
- 5 バルカン半島の歴史 ビザンツ帝国を中心に(西村道也)
- 6 バルカン半島の歴史 オスマン帝国とユーゴスラビアを中心に(西村)
- 7 ドイツの地域生活とスポーツ(藤井雅人)
- 8 スポーツ強国としてのドイツ(藤井)
- 9 中世のゴシック建築 フランスの大聖堂を中心に(太記祐一)
- 10 建築文化のHUBとしての19~20世紀(太記)
- 11 ヨーロッパにおける生物分類と進化論の発展(田上響)
- 12 現代オーストリアの政治体制 成立と発展(東原正明)
- 13 現代オーストリアの政治体制 ナショナリズムの台頭(東原)
- 14 フランスの旧植民地:アルジェリア(辻部)
- 15 講義のまとめと展望・授業アンケートFURIKAの実施(辻部・堺)

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/jza9inwk2ogyx61g13ftvojhfebqvwvfs>)

辻部 大介、堺 雅志、浦上 雅司、西村 道也、藤井 雅人、太記 祐一、田上 響、東原 正明

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.ヨーロッパ社会のありようをヒントに今後の日本社会について考えていくための視座を得ようとする志向性を有している。(DP1-2) (態度・志向性)

2.ヨーロッパについて、地理・歴史・美術・宗教・言語・スポーツ・政治・建築の諸分野にまたがる幅広い知識を獲得している。(DP2-1) (知識・理解)

3.講義で身につけた知識をもとに、自らの考察を明瞭に記述することができる。(DP4-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

三島 健司、泉 哲哉、折居 英章、三角 真、光成 洋二、小村 富士夫、平田 修、新田 よしみ、鄭 磊、葛西 妙子、シャーミン タンジナ、妹尾 八郎
 期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・4 時限 試験時間割：2025/01/22 5 時限

--- 概要 ---

地域(ローカル)の特色や特性を考慮し、国際的(グローバル)に独自性を有して、すなわちグローバルに海外と付き合うグローバル化リテラシーを受講者が修得するために、グローバル化教育に精通した教員と地域特性・専門性・産学連携に精通した教員により、オムニバス形式で海外研修・留学の一助となるように実施する。教員の多くは、起業、経営、海外との交流などの多くの経験があり、実際に携わったそれらの経験を参考に講義します。受講する全学部の学生各自が、地域の歴史的、文化的、経済的、特徴的な素地を学び、将来、グローバルに活躍するための能力について学習する。講義の中では、グローバル化のために国際センターが実施している留学、英語プレゼンコンテストなどのイベントについても説明が行われる。本講義担当教員の泉哲哉、光成 洋二、小村富士夫、妹尾 八郎の4名は企業において国際化などの実務経験を有し、それを活かした講義を行います。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、オムニバス形式で、教員が作成した講義資料や実験動画をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容を確認するために、課題の用紙を配布し、各回の講義終了時に解答を提出します。本授業は、基本的には講義を主とした授業形態で進行しますが、回によっては、授業中に5分程度のグループディスカッションを取り入れる予定です。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(DP1-2)(態度・志向性)

国際性に関して、さまざまな領域での事例を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-1)(知識・理解)

さまざまな領域の国際性に関して学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-2)(態度・志向性)

身につけた国際性に関する知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる技能を有する。(DP4-1)(知識・理解)

身につけた知識やスキルにより共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

シラバスをもとに、海外での仕事、留学に必要な能力・基礎知・手続きと制度・東アジア・東南アジアの特徴について自分の言葉で正確に説明できるように、インターネット等を用いて各自で調べる。(予習)(30分)

講義で習ったことを、各自のことばで表現できるように記述練習をする。(復習)(180分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価は、定期試験を90%、各回の課題ならびレポートなどを10%として、評価する。

成績評価の基準としては、海外での仕事、留学に必要な能力・基礎知・手続きと制度・東アジア・東南アジアの特徴について自分の言葉で正確に説明できているかを評価の基準とする。また、レポートの課題について、十分なデータを集めたか、そのデータに基づいて自分の見解を明確に記述しているかを評価の基準とする。

--- テキスト ---

講義中に資料を配布する。

--- 履修上の留意点 ---

講義中に配布する資料は、各自がファイルに整理し、講義に必ず持参すること。

--- 授業計画 ---

まず、全体のガイダンスとスケジュール・評価方法について説明を行う。以下のスケジュールで実施する。

1. 「スタートアップ授業」イントロダクション+国際交流の説明のビデオを講義前に各自視聴する。担当：三島健司

[達成目標1]本講義の目的と進め方を通じ、社会における国際化の重要性を理解します。

2. 東アジア・東南アジアと福岡の交流+

親日的な海外の国 担当：三島健司

海外での仕事、留学に必要な能力・基礎知識

3. 化粧品と国際化 担当：泉 哲哉

4. コンピューターとAI技術 担当：折居 英章

5. インターネットとグローバル化 担当：三角 真

6. 国際的企業 担当：光成 洋二

7. 世界の商売 担当：小村富士夫

[達成目標2]国際化とコンピューター技術の関わりを理解します。

8. 世界に広がる福岡大学方式・環境技術 担当：平田 修

[達成目標3]国際化と環境技術の関わりを理解します。

9. コミュニケーションツールとしての英語1 担当：新田 よしみ

10. コミュニケーションツールとしての英語2 担当：新田 よしみ

11. コミュニケーションツールとしての英語3 担当：鄭 磊

12. 国際化と日本語 担当：葛西 妙子

海外出張などの実例、英語プレゼンコンテスト、福岡大学が実施している留学システムなどの説明

[達成目標4]国際化とコミュニケーションの重要性を理解します。

13. 感染症とグローバル化 担当：タンジナ・シャーミン Tanjina Sharmin

14. 世界のビジネスモデル 担当：妹尾 八郎

15. グローバル科学技術 担当：三島健司

グローバル科学技術について解説し、あわせてFURIKAを実施し、講義全体の総括を行います。

[達成目標5]国際化と環境・科学技術について理解します。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/lj83mqhwmsw8edfz9wxrn14ihcmmuqq>)

三島 健司、泉 哲哉、折居 英章、三角 真、光成 洋二、小村 富士夫、平田 修、新田 よしみ、鄭 磊、葛西 妙子、シャーミン タンジナ、妹尾 八郎

全学部学科: DP1-2, DP2-1, DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (DP1-2) (態度・志向性)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 国際性に関して、さまざまな領域での事例を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

3. さまざまな領域の国際性に関して学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (DP2-2) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

4. 身につけた国際性に関する知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる技能を有する。 (DP4-1) (知識・理解)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

5. 身につけた知識やスキルにより共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性 (DP4-2) (態度・志向性)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

鈴木 孝将、Kenji Mishima, Rai Tei, Yoshimi Nitta, Mikio Ouchi, Sharmin Tanjina, Atsuo Suga, Shinya Suzuki, Richard Smith, Takashi Egawa, Sachiyo Hoshino, Keiji Yanase
 期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義(外国語による) 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・5 時限 試験時間割：2025/01/22 5 時限

- - - 概要 - - -

This is an omnibus format course taught in English. Various faculty members of Fukuoka University and external lecturers will give lectures based on their academic expertise and specialties (e.g. area characteristics, academic-industrial partnerships, and so on), and students will be able to acquire "glocal literacy" by understanding area characteristics and global uniqueness of their own. Instructors have broad experience in start-up business, business management, and/or international exchanges, and each student will learn local history, culture, economics, and special characteristics with the instructors and understand what they need for their "global" career in the future.

- - - 授業の進行・方法 - - -

This lecture is proceeded in a lecture format.

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

Students can explain communication abilities required to study or work abroad.
(DP1-2)(技能)

Students can acquire basic knowledge on daily life required to study or work abroad.(DP2-1)(知識・理解)

Students can have an interest and an inquisitive mind on the international community and the role of Japan(DP4-1)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

Students need to study materials and do research on the Internet at home to prepare essays related to lectures.(90分)

Students need to review the lectures with materials at home to understand the important points.(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

Based on the essays and assignments submitted for each lecture and the results of semester final examinations, communication skills, basic knowledge about living and studying abroad, and attitudes and intentions toward internationalism are evaluated. The evaluation criteria for the submitted assignments are whether sufficient data has been collected and whether the students have clearly stated their own views based on these data. Students are evaluated based on the semester final exams (90%) and essays and assignments from each lecture (10%).

- - - テキスト - - -

Materials will be distributed in class. Students need to file distributed materials and bring them to class.

- - - 履修上の留意点 - - -

- - - 授業計画 - - -

1. Syllabus description and introduction as Start UP (Takayuki Suzuki)
2. Communication learning from pro-Japanese countries (Kenji Mishima)
3. Language acquisition in internationalization (Rai Tei)
4. Power of Writing (Yoshimi Nitta)
5. Study in Australia (Mikio Ouchi)
6. Globalization and the infectious diseases (Sharmin Tanjina)
7. Global science (Mikio Ouchi)
8. Competencies needed to work abroad (Atsuo Suga)
9. Environmental technology in internationalization (Shinya Suzuki)
10. Carbon-neutral science and technology (Yoshimi Nitta)
11. Nuclear safety and radiation monitoring (Richard Smith)
12. Preparation for domestic and foreign disasters from the standpoint of a pharmacist (Takashi Egawa)
13. Urbanization in Asia and the Pacific: Issues and Solutions (Sachiyo Hoshino)
14. Data society and internationalization (Keiji Yanase)
15. Electronics technology and internationalization, and class questionnaire FURIKA (Takayuki Suzuki)

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/vxgri8b805m6261vzqeu1fi4u1xyeueb>

鈴木 孝将、Kenji Mishima, Rai Tei, Yoshimi Nitta, Mikio Ouchi, Sharmin Tanjina, Atsuo Suga, Shinya Suzuki, Richard Smith, Takashi Egawa, Sachiyo Hoshino, Keiji Yanase

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.Students can explain communication abilities required to study or work abroad.
(DP1-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.Students can acquire basic knowledge on daily life required to study or work abroad.
(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

3.Students can have an interest and an inquisitive mind on the international community and the role of Japan (DP4-1) (技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山本 俊浩、柳橋 泰生、木下 幸治、為田 一雄、武下 俊宏、星野 篤、岡田 義広、田代 武夫

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・5 時間 試験時間割：2025/01/15 3 時間

概要

本講義は、現在、国際的な課題として挙げられている持続可能な開発目標（SDGs）の一つでもある「持続可能な生産と消費」に関する理解を深め、社会的良識と幅広い視野を持つことを目指すという観点から、国及び地方における環境行政の現状、各種資源のリサイクル、廃棄物処理問題の現状と課題、化学物質による環境汚染等を学びます。

具体的な内容は以下のとおりです。

(1) 環境省で環境行政に従事していた教員がその経験を活かし、持続可能な社会の構築に向けた国（環境省）の取組み、地方における環境行政については(2) 元福岡市環境局職員から福岡市のごみ行政、アジア地域への廃棄物分野の技術移転及び国際協力等、(3) 現北九州市職員から北九州の環境行政について学びます。また、各種資源のリサイクルに関しては(4) 製品の資源採取から廃棄までを総合的に評価し、環境への負荷を最小にしようとする試みの紹介と材料リサイクルの現状と課題、さらに各種リサイクル法について、特に、(5) 建設廃棄物のリサイクル、(6) 企業において家電リサイクルに従事している実務経験を活かした解説から家電リサイクルの現状と問題点について理解します。(7) 環境コンサルタントで研究開発に従事していた教員が廃棄物処理処分に関する計画設計および事業化等の実務経験を活かした解説により、わが国の廃棄物処理等の現状とこれからのあり方について、さらに(8) 国内で発生し社会問題となった化学物質による環境汚染や健康被害についても学びます。

授業の進行・方法

講義は、専門分野の異なる8人の教員が担当するオムニバス形式です。それぞれの担当者が作成したパワーポイントを用いて講義形式での授業を実施します。講義資料は、事前にFUポータル上にアップロードしますので、確認してください。また、教員によっては当日、教室で配布する場合もあります。毎回の授業内容を理解したかを確認するために小テストを実施します。また、定期試験と同じ形式で、途中、それまでの講義内容の理解度を確認するために中間テストを実施します。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

国および各地方自治体（具体的には福岡市と北九州市）による環境政策の取り組みを理解することができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

各リサイクル法や廃棄物処理処分がどのような背景、目的のもと実施されているかを知ることができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

国および各地方自治体（具体的には福岡市と北九州市）によって環境政策の取り組みは異なり、各種リサイクルにおいても、その産業界の歴史、対象品目、立場によってどのような手法が最適か、実際にどのようなリサイクル手法がとられているかは異なることを学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。(DP2-2)(技能)

先行事例を理解することで、新たな課題に対してどのような解決策があるのかを身に付けた知識を相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができるようになる。(DP4-1)(技能)

環境問題について、テレビ、インターネット、新聞、雑誌等で多くの情報が発信されているが、幅広い環境問題を意識しなければその情報を得ることはできない。この講義を通じて、環境問題に関する情報を日常的に取得し、考えられるようになる。(DP1-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習

FUポータルの講義内容を確認し、配布資料のある講義はその内容を、配布資料のない講義はインターネット等で関連事項を調べておいてください。(90分)

復習

授業の最後に小テストを実施するので理解できなかったところを復習しておいてください。

特に、各自、小テストの模範解答をその日の講義資料やノートおよび関係する参考資料をもとに作成しておいてください。(90分)

成績評価基準および方法

到達目標が達成できているかを確認するため、国および地方自治体の環境に対する取り組みや各種資源のリサイクル、廃棄物処理問題の現状と課題についての基礎知識が得られているかを総合的に評価します。

配分は以下の通りです。

小テスト 30% : 各担当が講義の最後に行う小テスト

中間試験 30%

定期試験 40%

を目安に総合的に判断します。

テキスト

特に定めない。講義資料は、事前にFUポータル上にアップロードするか、当日、教室で配布します。

参考書

各担当者が、各自の担当範囲で適宜紹介する。

履修上の留意点

この講義は、資源循環と地球環境問題についての基本的な考え方及び実務者の立場からみた現状と課題について理解することを目的としている。現代社会の課題等を勉強することを目的に受講する場合は問題ないが、卒業単位を得るために受講する場合は、定期試験の結果のみで評価せず、毎回の授業で実施する小テストや中間試験の成績が重要になるため、就職活動等で欠席が多い場合は単位取得は困難と思われる。この点を考慮して履修登録してください。

授業計画

- 1 イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）
（担当） 山本 俊浩（工学部）
- 2 材料リサイクルの現状と課題（1）
循環型社会形成基本計画を具体的事例で紹介
（担当） 山本 俊浩（工学部）
- 3 持続可能な社会の構築に向けた
我が国の取組（1） 脱炭素社会実現への取組
（担当） 柳橋 泰生（工学部）
- 4 持続可能な社会の構築に向けた
我が国の取組（2）
自然共生社会および循環型社会構築に向けた取組
（担当） 柳橋 泰生（工学部）
- 5 家電リサイクルの現状と課題
（担当） 星野 篤（西日本家電リサイクル（株））
- 6 北九州市の環境行政
（担当） 岡田 義広（北九州市役所）
- 7 建設副産物におけるリサイクルの現状と課題(1)
建設リサイクル法の概要について
（担当） 木下 幸治（工学部）
- 8 中間評価
（担当） 柳橋 泰生（工学部）
- 9 建設副産物におけるリサイクルの現状と課題(2)
建設廃棄物のリサイクル技術について
（担当） 木下 幸治（工学部）
- 10 材料リサイクルの現状と課題（2）
各個別リサイクル法と
プラスチックリサイクルについて
（担当） 山本 俊浩（工学部）
- 11 廃棄物処理問題の現状と課題（1）
住民合意形成と環境アセスメントについて
（担当） 為田 一雄（工学部）
- 12 福岡市のごみ行政の現状と課題
（担当） 田代 武夫（元福岡市環境局）
- 13 廃棄物処理問題の現状と課題（2）
廃棄物処理処分及び最終処分場について
（担当） 為田 一雄（工学部）
- 14 化学物質による環境汚染と健康被害
（担当） 武下 俊宏（工学部）
- 15 授業評価・授業アンケートFURIKAの実施など
（担当） 山本 俊浩（工学部）

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/cbjdu7978nj6so3qhx3tt224kfj3yfpz>)

山本 俊浩、柳橋 泰生、木下 幸治、為田 一雄、武下 俊宏、星野 篤、岡田 義広、田代 武夫

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 国および各地方自治体（具体的には福岡市と北九州市）による環境政策の取り組みを理解することができるようになる。（DP2-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 各リサイクル法や廃棄物処理処分がどのような背景、目的のもと実施されているかを知ることができるようになる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

3. 国および各地方自治体（具体的には福岡市と北九州市）によって環境政策の取り組みは異なり、各種リサイクルにおいても、その産業界の歴史、対象品目、立場によってどのような手法が最適か、実際にどのようなリサイクル手法がとられているかは異なることを学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。（DP2-2）（技能）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

4. 先行事例を理解することで、新たな課題に対してどのような解決策があるのかを身につけた知識を相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができるようになる。（DP4-1）（技能）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

5. 環境問題について、テレビ、インターネット、新聞、雑誌等で多くの情報が発信されているが、幅広い環境問題を意識しなければその情報を得ることはできない。この講義を通じて、環境問題に関する情報を日常的に取得し、考えられるようになる。（DP1-2）（態度・志向性）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

重松 幹二（工・化学システム工学）、松井渉（日本気象協会）、高山肇夫（工・建築）、佐藤研一（工・社会デザイン工学）、柴田久（工・社会デザイン工学）、高橋淳夫（読売新聞社）、矢守克也（京都大学防災研究所）、伊藤豪（商）、岩永和代（医・看護）
期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・5時限 試験時間割：2025/01/22 5時限

概要

平成7年の阪神・淡路大震災、平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震、そして令和6年元旦の能登半島地震と、甚大な災害が国内で発生した。一方福岡では、平成11年および15年に御笠川氾濫における博多駅周辺の水害、平成17年には福岡県西方沖地震が発生し、安全とされていた福岡市内でも日頃から災害に対して高い注意意識が必要であることが明らかとなった。また、将来関東・東海・関西などに就職する学生にとっても、大学で防災・減災に関する知識を身に付けておくことは極めて重要である。

この講義では、防災に関する基礎知識を学ぶことにより、災害から自分や家族を守る術、被害を最小にする準備と対応方法を修得する。特に、
・自助（自分や家族の命はまず自分たちで守らなければならない）
・共助（被災した近所の人を助けることの重要性）
・公助（公的機関による救援行動の大災害時における脆弱さ）
の考え方を柱とし、各トピックスを理解することで、一生涯役に立つ教養を身に付けることができる。

講義は学内の各学部の教員に加え、多方面の外部講師によるオムニバス形式で進められ、文系理系両側面から防災に関する知識を広く得ることに特徴がある。実務経験者の講師として、松井渉は気象予報士であるとともにNHKの気象ニュースキャスターを担当しており、気象予報の仕組みや自然災害全般に関する講義を行う。高橋淳夫は読売新聞社の記者として東日本大震災や原発事故の取材経験があり、報道機関の取材行動や記事のまとめ方、取材を通して得られた災害周辺状況について講義する。また、福岡市消防局の中村翔および福岡市市民局地域防災課の矢野貴広をゲストスピーカーとして呼び、災害に対する行政機関の考え方と市民への期待を講義する。

授業の進行・方法

本授業は講義形式で進め、毎回小テストを課す。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

自然災害の発生メカニズムと想定される被害、気象予報の仕組みを知ることで警報や注意報などの用語を正しく理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

「自助・共助・公助」の意味とそこで発生しうる問題点、市役所や消防局の事前対策と発災時の行動を理解することで、個人としてより良い対応を考える力を身に付けることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

災害発生時の初動およびその後の復旧・復興に必要な行動を理解することで、卒業後にどのような職業に就いても、どのような地域に居ても、防災や減災に対する志向力を身に付けることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

防災が闘う最大の敵は自然災害ではなく個人の「正常化の偏見（正常性バイアス）」であることを知り、総合的な知識と想像力、多角的な視野が必要であることを理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

自分や家族のみならず、社会全体の安全に対する高い倫理観を持ち、短期的・長期的な行動に移すことができる。(DP2-2)(態度・志向性)

既存の学問分野や既存の知識とらわれず、想像力を養うことで、防災や減災には1つの正しい答えはなく、相手の立場を理解してより良い選択を探し出す技能を身に付けることができる。(DP4-1)(技能)

防災や減災に限らず、日ごろから積極的に地域社会に参画・貢献できる人物へと成長することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

次の授業のために必要な予習内容を指示するので、90分程度の予習の時間を要する。(90分)

授業終了後に毎回小テストを行うとともに、解答締切後に正答をFU_boxを利用して配布するので、90分程度の復習を行うこと。(90分)

成績評価基準および方法

授業終了後、毎回FUポータルを利用した選択問題あるいは記述問題による小テストを実施する。その日の個別の授業内容が理解できたかを評価の基準とする。単に出席しただけでは評価しない。

定期試験では、災害から自分を守る、災害の状況を知る、地域を守る、災害と社会システム、いのちを守る、の各項目の知識およびそれらを統合した知識が得られたかを評価の基準とする。

定期試験(70%)と毎回行う小テスト(30%)を総合して最終成績とする。

テキスト

プリントを配布する。

また、FU_boxに受講者専用のフォルダを設け、手元のスマホを使って授業中でもスライドを閲覧できるようにする。

履修上の留意点

緊急時には対策本部や災害現場に出動しなければならない講師が多いため、急な休講や講義順が変更となる場合がある。休講となった場合は補講を行うので、掲示板に注意すること。

授業計画

- [防災意識の必要性] 自助・共助・公助（重松）＜スタートアップ授業＞
- [災害の状況を知る] 気象予報、警報・注意報（松井）
- [災害から自分を守る] 過去の大震災や風水害からの教訓（高山）
- [災害から自分を守る] ライフラインの被害想定と断絶時対応（佐藤）
- [災害の状況を知る] 最近の自然災害（福岡県西方沖地震、御笠川）（松井）
- [災害と社会システム] 都市災害、防災計画・技術、災害とインフラ・デザイン（柴田）
- [災害から自分を守る] 個人の平常時の準備と災害時対応（重松・ゲストスピーカー：中村）
- [地域を守る] 防災関係機関の対応（重松・ゲストスピーカー：矢野）
- [地域を守る] 地域の防災活動、自主防災組織、消防団活動（重松・ゲストスピーカー：中村）
- [災害の状況を知る] 災害に対する報道機関の取り組み（高橋）
- [災害と社会システム] 被災社会の多様性（高橋）
- [いのちを守る] 災害心理、被災者の行動意識（矢守）
- [災害と社会システム] 災害と損害保険（伊藤）
- [いのちを守る] 災害医療、トリアージ、高齢者・乳幼児対応（岩永）
- [防災活動の必要性] 防災活動の必要性、私達にできること、授業アンケートFURIKAの実施（重松）

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/m1ohnazv4wbyvppy114l6ouled5h1v46>)

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.自然災害の発生メカニズムと想定される被害、気象予報の仕組みを知ること
で警報や注意報などの用語を正しく理解することができる。（DP1-1）（知識・理解）

2.「自助・共助・公助」の意味とそこで発生しうる問題点、市役所や消防局の
事前対策と発災時の行動を理解することで、個人としてより良い対応を考える
力を身に付けることができる。（DP1-2）（態度・志向性）

3.災害発生時の初動およびその後の復旧・復興に必要な行動を理解すること
で、卒業後にどのような職業に就いても、どのような地域に居ても、防災や減
災に対する志向力を身に付けることができる。（DP1-2）（態度・志向性）

4.防災が闘う最大の敵は自然災害ではなく個人の「正常化の偏見（正常性バイ
アス）」であることを知り、総合的な知識と想像力、多角的な視野が必要であ
ることを理解することができる。（DP2-1）（知識・理解）

5.自分や家族のみならず、社会全体の安全に対する高い倫理観を持ち、短期
的・長期的な行動に移すことができる。（DP2-2）（態度・志向性）

6.既存の学問分野や既存の知識にとらわれず、想像力を養うことで、防災や減
災には1つの正しい答えはなく、相手の立場を理解してより良い選択を探し出
す技能を身に付けることができる。（DP4-1）（技能）

7.防災や減災に限らず、日ごろから積極的に地域社会に参画・貢献できる人物
へと成長することができる。（DP4-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、
B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている
（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い
視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事
を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔
軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、
C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発
揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活
用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長
に貢献することができる（B、C）

安井 英俊、ウエストン ステファニー

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

概要

本講義は、15回の授業を、講義形式で行う。本講義では、政策・法律・国際・文化の四つの観点から「サステナビリティのためのイノベーション」について解説を行う。授業の進め方としては、国際的に活躍できる人材育成のため、英語と日本語のバイリンガルで講義を実施する。具体的には、担当者が英語で講義する場合は日本語の資料を配布し、日本語で講義する場合には英語の資料を配布するといった形式で行う。また、国内外からゲストスピーカーを招聘する。

本講義の目的は以下の点にある。すなわち、政策・法律・国際・文化の観点から持続可能である社会のためにイノベーションの発展及びあり方についてさまざまな分野の専門家から学ぶこと、そして、先進国と途上国の「サステナビリティのためのイノベーション」に関する考え方を理解しながら現在の地球の置かれている環境を理解することである。

授業の進行・方法

本講義は、教員が作成した講義資料（電子ファイルの閲覧あるいは配布）をもとに講義形式で行う。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

持続可能な社会と自分について、基礎的な事項を理解する(DP1-2)(知識・理解)

持続可能な社会に関連する諸説を理解する(DP2-1)(知識・理解)

持続可能な社会を実現するための各国の立場の違いを理解する(DP2-2)(知識・理解)

持続可能な社会を実現するための知識を関連付け、様々な文脈で認識できる(DP4-1)(技能)

持続可能な社会の実現が、地球共同体そして自身の課題として行動する態度・指向性を獲得する。(DP4-2)(技能)

授業時間外の学習(予習・復習)

各回の講義内容の振り返りと理解の確認をすること。(100分)

外部講演者登壇に先立ち、関連する項目を理解し、質問を考えておくこと。(80分)

成績評価基準および方法

学期末の定期試験は実施しない。よって再試験も実施しない。第15回目（最終回）の講義内で期末筆記試験を日本語で実施する（試験はノート・資料持込可）ほか、各講義回で実施するミニツツペーパーも評価に加える。

期末試験：70%、ミニツツペーパー：30%

テキスト

無し。講義資料は配布する。

履修上の留意点

ゲストスピーカーの回は英語を使用する可能性がある。その場合は、日本語で補助する。

授業計画

1回（安井）
初回イントロダクション（スタートアップ動画）
授業の進め方、取り組み等について

2回（安井）
公害の歴史
（ゲストスピーカー：園田高明博士）
過去にどのような公害があったのか概観する

3回（安井）
モンゴルの環境問題（ゲストスピーカー）
モンゴル国立大学法学部長のアマルサナー教授による、モンゴルの環境問題やサステナビリティへの取り組みの解説

4回（安井）
4大公害と公害訴訟
いわゆる4大公害とその訴訟について、具体的に解説する

5回（安井）
水俣病～医学の観点から～
（ゲストスピーカー：大森隆史医師・ランドマーク横浜国際クリニック院長）
医師の立場から水俣病について解説する

6回（安井）
水俣病～法学の観点から～
水俣病訴訟について法学の観点から解説する

7回（安井）
原発と法
原発の運転差し止めを求める訴訟等について解説する

8回（ウエストン）
イノベーションと米国のクリーンエネルギーアジェンダ
アメリカにおけるクリーンエネルギーアジェンダについて解説する

9回（ウエストン）
国連ハビタットについて（ゲストスピーカー）
国連ハビタット福岡本部の活動を紹介する

10回（ウエストン）ゲストスピーカーによる講義

11回（ウエストン）ゲストスピーカーによる講義

12回（安井）映画『もののけ姫』から学ぶ環境問題
宮崎駿監督の名作『もののけ姫』を題材として環境問題を学ぶ

13回（ウエストン）持続可能な生活様式のためのイノベーション
アメリカにおける取り組みを紹介する

14回（安井）AI・科学と哲学
（ゲストスピーカー：園田高明博士）
AI・科学と哲学について解説する

15回（安井）最終テスト
授業アンケートFURIKAの実施

講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性がある。また、ゲストスピーカーの予定に応じて、講義の順番が前後する可能性がある。

各種団体からゲストスピーカーを招へいする講義回では、現時点で担当講師が確定している場合は氏名を記載してある。

スタートアップ授業

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/aiotdc892p7s29brxhphzq1eh94m43ix>)

安井 英俊、ウエストン ステファニー

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.持続可能な社会と自分について、基礎的な事項を理解する (DP1-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.持続可能な社会に関連する諸説を理解する (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.持続可能な社会を実現するための各国の立場の違いを理解する (DP2-2) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.持続可能な社会を実現するための知識を関連付け、様々な文脈で認識できる (DP4-1) (技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.持続可能な社会の実現が、地球共同体そして自身の課題として行動する態度・指向性を獲得する。 (DP4-2) (技能)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山崎 好裕、渡辺啓介 平井靖史 五十嵐寧史

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：火・4時限 試験時間割：2025/01/22 5時限

- - - 概要 - - -

2020年からの新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、人類の社会活動を一変させて各国経済に打撃を与えました。そんななか、この授業の主催者は日本政府が最初の緊急事態宣言を出す前の3月、ある論文を発表しました。それがこの講義の最初の回に当たる論文です。

ウイルスはお金に似ているのではないか。そんなインスピレーションでした。お金を使った経済は人の多く集まる都市で発展します。しかし、その都市はコロナウイルスのようなウイルスにとっても格好の感染の場となるのです。

自宅待機要請によって街からは人の姿が消えました。あたかもお金の流れがウイルスに置き換わったようです。

その後、このようなアイデアに関心を持ってくれた同僚たちと本を準備するようになりました。それは私たち人類が経験した3年間を何らかのかたちで残しておきたいという気持ちの表れだったかもしれません。

皆さんも高校生としてたいへん苦しく不自由な思いをしたことでしょう。しかし、どのような困難も大学で研究者が行っているような研究活動にとっては、一つのきっかけとなるものなのです。

この授業で聞く話は、皆さんにとって驚くことばかりかもしれません。でも、そこにこそ学問の面白さ、大切さがあるのです。

この授業の担当者には、文系の教員も理系の教員も混じっています。このような授業を経験することで、現代という時代が文系・理系の枠を超えたフェーズに入っていることをも、皆さんは実感できるのではないのでしょうか。

講義では各回の教員がとってわかりやすく解説をします。質問があればその場で挙手してください。皆さんと有意義な議論ができることを期待しています。

- - - 授業の進行・方法 - - -

事前にテキストを予習していることを前提に反転授業を意識した内容説明を行います。また、必要に応じて授業中に議論も行います。

授業後は各自振り返りを行い、授業課題に解答することで理解を深めます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

新型コロナウイルス感染症から浮かび上がる貨幣を中心とする経済社会への理解がある。(DP1-2)(知識・理解)

分野を横断して多角的に貨幣と社会を捉える能力がある。(DP2-1)(技能)

社会的な繋がりに自ら主体的に参加する態度と関心がある。(DP4-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

テキストの当該箇所を事前に読んでくる。(90分)

授業でやった内容をテキストとノートで確認し、moodleの授業課題に答える。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

分野の枠を超えて、斬新な視点から現代社会を捉える力を身に付けるには最適の授業です。皆さんがこの授業を通して高い思考力を獲得できていることを期待しながら、評価を付けたいと思います。

100%、定期試験で点数を出します。

試験内容と配点は、文章への穴埋め問題が30点、○×の正誤問題が40点、図の説明への穴埋め問題が30点です。

- - - テキスト - - -

山崎好裕・五十嵐寧史・平井靖史・渡辺啓介・倉岡功著『貨幣の謎：新型コロナウイルスから考える』中央経済社、2023年。ISBN 978-4-502-47251-0

- - - 履修上の留意点 - - -

テキスト執筆者が直接講義を行います。新型コロナウイルス感染症から考えたことをテーマにした世界最初の授業ですので期待してください。

- - - 授業計画 - - -

1. はじめに（スタートアップ授業）（山崎）

2. パンデミックと貨幣（山崎）

3~4. 記憶と貨幣（山崎）

5~6. 物質とヒステレシス（渡辺）

7~8. 生命と貨幣（山崎）

9~10. 主観的時間と貨幣（山崎）

11~12. マルチスケール時間構造とは？（平井、オンライン）

13. 文学における貨幣と伝染病（山崎）

14~15. 電子通貨の現状と可能性（五十嵐）

* スマホから授業アンケートFURIKAに回答してもらいます。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/s0s0shj6jtst9fudj1ng7n8hvual7mel>)

山崎 好裕、渡辺啓介 平井靖史 五十嵐寧史

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.新型コロナウイルス感染症から浮き上がる貨幣を中心とする経済社会への理解がある。（DP1-2）（知識・理解）

2.分野を横断して多角的に貨幣と社会を捉える能力がある。（DP2-1）（技能）

3.社会的な繋がりに自ら主体的に参加する態度と関心がある。（DP4-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

岩山 隆寛、久保田 純、合力 知工、篠原 正典、須長 一幸、田中 綾子、田上 響、田部井 優也、山辺 純一郎

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：木・5時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

地球温暖化の深刻化が増す中で、日本においても2030年にカーボンニュートラルの実現を目指している。その中で、本学においても令和4年度にカーボンニュートラル協議会を立上げ、福岡大学の教員、職員、学生が三位一体となって、カーボンニュートラルの研究、教育に力を入れることを宣言した。本授業は、そのうちの教育部分の底上げを担うものである。カーボンニュートラルはともすれば、技術面に偏る傾向があるが、経済やビジネス、人の行動変容とも密接に係るものである。本授業は、1)カーボンニュートラルを理解する人材の育成、2)幅広い知識を有し、それらを有機的に結び付けてカーボンニュートラルを含む様々な課題を解決できる人材の育成を目的とする。授業内容は以下の12回の講義と、4回に一回の割合で行う総合討論により構成されている。

1. 地球温暖化の状況とインパクト
2. 地球とその大気の成り立ち
3. 地球史における二酸化炭素濃度の変遷
4. 日本におけるカーボンニュートラルの取り組みと各国との比較
5. 電力システムの現状と課題
6. カーボンニュートラルにおける原子力発電の役割
7. 水素社会の可能性
8. カーボンニュートラル燃料
9. 交通部門におけるCO2削減
10. 地球温暖化のビジネス機会
11. ESG投資と企業の対応
12. これから私たちは何をすべきか？

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、オムニバス形式で実施する。全体で15回の授業回は、4回の講義と1回の総合討論を1セットとし、3セットで構成されている。総合討論では、4人でグループを形成し、各人が担当する授業回の授業内容をまとめたレジюмеを事前に作成し、それをもとにグループ内で討論を行う。

文系、理系の学生がそれぞれ100名程度のクラス規模で実施し、文理双方の内容を含む。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

1. 毎回のレポートの作成、総合討論回への準備など、授業で要求される基本的な学習活動を計画的に遂行できる(DP1-2)(技能)
2. カーボンニュートラルの実現にはさまざまな学問領域が関わることを踏まえ、カーボンニュートラルに関する諸領域がそれぞれどのような状況になっているかを説明することができる(DP2-1)(知識・理解)
3. カーボンニュートラルに関する諸領域の基礎的な知識を用いて、カーボンニュートラルについて自分の見解を述べるができる(DP4-1)(知識・理解)
4. カーボンニュートラルに関する諸問題について、多角的な視野からグループで合意形成に向けた議論を行うことができる(DP2-2)(技能)
5. カーボンニュートラルに関する諸問題を通じて、社会の問題に自ら関わろうとする(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習1：事前にテキストの該当する章を読んでおくこと。(60分)

予習2：総合討論回(5回、9回、15回)では、授業の事前にレジюмеを作成し、提出すること。(180分)

復習：各教員が課すレポートを作成の上、moodleに提出すること。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

本科目では、毎回の授業ごとに提出するレポート(到達目標1、2、3、4)(72%)、4回につき1回の総合討論回の授業前に提出するレジюме(到達目標1)(6%)、グループ活動への貢献(到達目標4)(10%)、最終レポート(到達目標5)(12%)のそれぞれの内容に応じて成績評価を行う。定期試験は行わない。

--- テキスト ---

「カーボンニュートラルが変える地球の未来 - 2050年への挑戦」(晃洋書房)、ISBN978-4-7710-3749-6

--- 履修上の留意点 ---

本科目は、定期試験を実施しないため追試験および再試験を受けることはできません。

本授業では、授業改善や研究、広報等の目的から、授業の様子を撮影することがあります。また、個人が特定されないような配慮をしたうえで、上記の目的で受講生の学習成果を活用することがあります。

討論回では「Microsoft Teams」を活用します。可能であれば、ノートパソコンやタブレットを、難しい場合でも、スマートフォンを持参するようにしてください。

--- 授業計画 ---

1. 地球温暖化の状況とインパクト(スタートUP授業) [岩山]
2. 地球とその大気の成り立ち [岩山]
3. 地球史における二酸化炭素濃度の変遷 [田上]
4. 日本におけるカーボンニュートラルの取り組みと各国との比較 [田中]
5. 総合討論1 [須長]
6. 電力システムの現状と課題 [篠原]
7. カーボンニュートラルにおける原子力発電の役割 [篠原]
8. 水素社会の可能性 [山辺]
9. カーボンニュートラル燃料 [久保田]
10. 総合討論2 [須長]
11. 交通部門におけるCO2削減 [田部井]
12. 地球温暖化のビジネス機会 [合力]
13. ESG投資と企業の対応 [合力]
14. これから私たちは何をすべきか? [須長]
15. 総合討論3およびFURIKAへの回答 [須長]

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/qolsx0a4yt3zgxia99dcqh8wzq76pqr>)

岩山 隆寛、久保田 純、合力 知工、篠原 正典、須長 一幸、田中 綾子、田上 響、田部井 優也、山辺 純一郎

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1.毎回のレポートの作成、総合討論回への準備など、授業で要求される基本的な学習活動を計画的に遂行できる (DP1-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2.カーボンニュートラルの実現にはさまざま学問領域が関わることを踏まえ、カーボンニュートラルに関する諸領域がそれぞれどのような状況になっているかを説明することができる (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

3.3.カーボンニュートラルに関する諸領域の基礎的な知識を用いて、カーボンニュートラルについて自分の見解を述べるができる (DP4-1) (知識・理解)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

4.4.カーボンニュートラルに関する諸問題について、多角的な視野からグループで合意形成に向けた議論を行うことができる (DP2-2) (技能)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

5.5.カーボンニュートラルに関する諸問題を通じて、社会の問題に自ら関わろうとする (DP4-2) (態度・志向性)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

鈴木 学

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：火・2時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

高等学校の公民科必修科目として従来までの「現代社会」に代わり、2022年度より「公共」が新設されました。「公共」の目的は、将来的に社会に参画する上で様々な課題と向き合い、それを解決する力を養うことにありますが、これは大学教育においても重要なミッションに位置づいています。

そこで本授業では、知識だけでは簡単に答えは導けない現代社会の“問い”に対して、大学生同士で熟考・熟議しながら一定程度自分なりの考えを構築できるようにすることを目指します。授業では気にはなるけれど今まであまり真剣には考えてこなかったであろう大きな3つのテーマ（「科学技術×倫理」「自由×平等」「戦争×平和」）を扱いますが、それらを“自分ごと”として受け止められるように、“input-throughput-output”の学習活動を組み合わせた授業を展開します。具体的にはディスカッション、ディベート、ジグソー法といった手法を取り入れて協働学習を進めていきます。最終的には、自分だけではなく他者の価値観の理解も深めながら、現代社会の様々な課題に対応するための判断力を養っていきます。

グループワークを核とした授業ですが、授業内に皆で議論する時間を有意義なものとするため、個人で事前に考えてきたり調べてきたりすることが求められる授業です。受講する上で、自分の考えを言葉にしようとし、他者の意見にも耳を傾けられる積極的な姿勢が必要です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は全15回を大きく3つに分けて、それぞれ異なるテーマと協働学習の手法を用いて進行します。テーマ毎に必ずbeforeレポート（そのテーマの学習前に自分自身の考えや認識を可視化するためのレポート）とafterレポート（そのテーマの学習後に、学習成果を踏まえた分析的なレポート）を作成することで、授業やグループワークを通じた自身の成長・変化を把握します。

協働学習においては、特にディベートやジグソー活動で事前準備が必須です。

毎回の授業後に振り返りのためのミニッツペーパーを作成します。これらの学習活動を円滑に実施するために、「Microsoft Teams」アプリを活用して授業を進めていきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

自身の専門・専門外両方の分野から現代社会の課題を把握し続けようとする事ができる。(DP1-2)(態度・志向性)

様々な分野における現代社会の課題を理解し、その構造を説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

他者と協働して課題探究に向けた議論ができる。(DP2-2)(技能)

自他の考え・主張を批判的に検討し、意義と課題を整理することができる。(DP4-1)(技能)

協働学習を通じて自身のみならず他者の学びに貢献しようとする積極性をもつことができる。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

< 復習 >

毎回の授業終了後に課すミニッツペーパーにおいて自身の学習を振り返る（授業の論点整理、新たに学んだことや芽生えた疑問の可視化等）。(90分)

< 予習 >

授業内での協働学習の効果を高めるために、課題に応じた資料・根拠を収集した上で、事前に自身の意見を整理する。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

毎授業のリフレクションペーパー（30%）：毎回の授業終了後に自身の学習を振り返られているか

プレゼン等の協働学習に関わる活動（25%）：協働学習の課題に応じてメンバーと共に学習を進められているか

計6回分のbefore/afterレポート（30%）：テーマ学習の前後で自身の意見・考えの変化を適切に表現できているか

期末レポート（15%）：自身で設定した現代社会にまつわるリサーチエッセイに対して、十分に調べた上で自分なりの答えを導いているか

定期試験は実施しません。故に再試験の対象ではありません。

--- テキスト ---

特に使用しません。テーマに応じた資料をデータ等で適宜共有します。

--- 参考書 ---

『福大生のための学習ナビ』（福岡大学 教育開発支援機構）

『言葉の力』育成の手引』（福岡大学 教育開発支援機構）

--- 履修上の留意点 ---

・無断欠席による学習活動の不履行は大幅な減点対象です。授業の構造上、全ての学習活動が連動しているため、自身の欠席が他者の学習にも影響を与えることを理解した上で受講してください。やむをえず欠席する場合には授業開始までにメール等で教員に連絡してください。

・撮影した授業の動画や写真、学習成果物（発表資料等）について、授業改善や研究等への活用で外部に公表する場合があります。その際、個人が特定されない形で使用します。

・授業（協働学習）では「Microsoft Teams」アプリを活用します。スマートフォンではなく可能な限りノートパソコンやタブレットを持参してください。

--- 授業計画 ---

第1回：イントロダクション（スタートアップ授業）

第2回：協働学習に向けたウォーミングアップ

第3回：「科学技術×倫理」（知識習得）

第4回：「科学技術×倫理」（現状の課題把握）

第5回：「科学技術×倫理」（ディスカッション）

第6回：「自由×平等」（知識習得・現状の課題把握）

第7回：「自由×平等」（ディベート準備）

第8回：「自由×平等」（ディベート準備）

第9回：「自由×平等」（ディベート）

第10回：「戦争×平和」（知識習得・現状の課題把握・エキスパート活動）

第11回：「戦争×平和」（エキスパート活動）

第12回：「戦争×平和」（ジグソー活動）

第13回：「戦争×平和」（ジグソー活動）

第14回：「戦争×平和」（総合討論）

第15回：総括・振り返り・FURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/mh6tfkchcmfzbb5i3bsx215nujbapsf>)

鈴木 学

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.自身の専門・専門外両方の分野から現代社会の課題を把握し続けようとする
ことができる。(DP1-2) (態度・志向性)

2.様々な分野における現代社会の課題を理解し、その構造を説明することが
できる。(DP2-1) (知識・理解)

3.他者と協働して課題探究に向けた議論ができる。(DP2-2) (技能)

4.自他の考え・主張を批判的に検討し、意義と課題を整理することができる。
(DP4-1) (技能)

5.協働学習を通じて自身のみならず他者の学びに貢献しようとする積極性を
もつことができる。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、
B、C）DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている
（A、B、C）理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い
視野と柔軟さ】DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事
を多角的に見ることができる（A、B、C）DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔
軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、
C）DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発
揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活
用・応用・工夫ができる（A、B）DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長
に貢献することができる（B、C）

鈴木 学

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：火・3時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

高等学校の公民科必修科目として2022年度より「公共」が新設されました。「公共」の目的は、将来的に社会に参画する上で様々な課題と向き合い、それを解決する力を養うことにあります。選挙権年齢が18歳に引き下げられたことで、大学教育においてもこれらの資質・能力に基づく学生の市民性（シチズンシップ）を高めるための取組みが求められています。この意味において、政治・経済に対する知識や考え方は、それらを専門に学ぶ・学ばないに関わらず、大学生であれば一定程度理解しておかなくてはならない教養と言えます。

そこで本授業では、日常生活では避けて通りがちな政治経済の“課題”に対して、大学生同士で熟考・熟議しながら、自分の価値観がどのようなものなのかをある程度理解できるようになることを目指します。授業では政治経済を理解する上での複雑な課題 思想、統治形態等が入り組んだ一見すると自分とは無関係に思えるような3つのテーマ（「自由×平等」「国家×共同体」「安全保障×主権」）を扱いますが、それらを“自分ごと”として受け止められるように、“input-throughput-output”の学習活動を組み合わせた授業を展開します。具体的にはディスカッション、ディベート、ジグソー法といった手法を取り入れて協働学習を進めていきます。最終的には、自分だけではなく他者の価値観の理解も深めながら、政治経済の様々な課題に対応するための判断力を養っていきます。

グループワークを核とした授業ですが、授業内に皆で議論する時間を有意義なものとするため、個人で事前に考えてきたり調べてきたりすることが求められます。受講する上で、自分の考えを言葉にしようとし、他者の意見にも耳を傾けられる積極的な姿勢が必要です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は全15回を大きく3つに分けて、それぞれ異なるテーマと協働学習の手法を用いて進行します。テーマ毎に必ずbeforeレポート（そのテーマの学習前に自分自身の考えや認識を可視化するためのレポート）とafterレポート（そのテーマの学習後に、学習成果を踏まえた分析的なレポート）を作成することで、授業やグループワークを通じた自身の成長・変化を把握します。

協働学習においては、特にディベートやジグソー活動で事前準備が必須です。毎回の授業後に振り返りするためのミニッツペーパーを作成します。これらの学習活動を円滑に実施するために、「Microsoft Teams」アプリを活用して授業を進めていきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

自身の専門・専門外両方の分野から政治経済の課題を把握し続けようとする事ができる。(DP1-2)(態度・志向性)

様々な分野における政治経済の課題を理解し、その構造を説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

他者と協働して課題探究に向けた議論ができる。(DP2-2)(技能)

自他の考え・主張を批判的に検討し、意義と課題を整理することができる。(DP4-1)(技能)

協働学習を通じて自身のみならず他者の学びに貢献しようとする積極性をもつことができる。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

< 復習 >

毎回の授業終了後に課すりフレクションペーパーにおいて自身の学習を振り返る（授業の論点整理、新たに学んだことや芽生えた疑問の可視化等）。(90分)

< 予習 >

授業内での協働学習の効果を高めるために、課題に応じた資料・根拠を収集した上で、事前に自身の意見を整理する。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

毎授業のリフレクションペーパー（30%）：毎回の授業終了後に自身の学習を振り返られているか

プレゼン等の協働学習に関わる活動（25%）：協働学習の課題に応じてメンバーと共に学習を進められているか

計6回分のbefore/afterレポート（30%）：テーマ学習の前後で自身の意見・考えの変化を適切に表現できているか

期末レポート（15%）：自身で設定した政治経済にまつわるリサーチエッセイに対して、十分に調べた上で自分なりの答えを導いているか

定期試験は実施しません。故に再試験の対象ではありません。

--- テキスト ---

特に使用しません。テーマに応じた資料をデータ等で適宜共有します。

--- 参考書 ---

『福大生のための学習ナビ』（福岡大学 教育開発支援機構）

『言葉の力』育成の手引』（福岡大学 教育開発支援機構）

--- 履修上の留意点 ---

・無断欠席による学習活動の不履行は大幅な減点対象です。授業の構造上、全ての学習活動が連動しているため、自身の欠席が他者の学習にも影響を与えることを理解した上で受講してください。やむをえず欠席する場合には授業開始までにメール等で教員に連絡してください。

・撮影した授業の動画や写真、学習成果物（発表資料等）について、授業改善や研究等への活用で外部に公表する場合があります。その際、個人が特定されない形で使用します。

・授業（協働学習）では「Microsoft Teams」アプリを活用します。スマートフォンではなく可能な限りノートパソコンやタブレットを持参してください。

--- 授業計画 ---

第1回：イントロダクション（スタートアップ授業）

第2回：協働学習に向けたウォーミングアップ

第3回：「自由×平等」（知識習得）

第4回：「自由×平等」（現状の課題把握）

第5回：「自由×平等」（ディスカッション）

第6回：「国家×共同体」（知識習得・現状の課題把握）

第7回：「国家×共同体」（ディベート準備）

第8回：「国家×共同体」（ディベート準備）

第9回：「国家×共同体」（ディベート）

第10回：「安全保障×主権」（知識習得・現状の課題把握・エキスパート活動）

第11回：「安全保障×主権」（エキスパート活動）

第12回：「安全保障×主権」（ジグソー活動）

第13回：「安全保障×主権」（ジグソー活動）

第14回：「安全保障×主権」（総合討論）

第15回：総括・振り返り・FURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/j7pf17og0ws8hqx4kwxstbaiogz15b80>)

鈴木 学

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.自身の専門・専門外両方の分野から政治経済の課題を把握し続けようとする
ことができる。（DP1-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.様々な分野における政治経済の課題を理解し、その構造を説明することが
できる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、
B、C）

3.他者と協働して課題探究に向けた議論ができる。（DP2-2）（技能）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている
（A、B、C）

4.自他の考え・主張を批判的に検討し、意義と課題を整理することができる。
（DP4-1）（技能）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い
視野と柔軟さ】

5.協働学習を通じて自身のみならず他者の学びに貢献しようとする積極性をも
つことができる。（DP4-2）（態度・志向性）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事
を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔
軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、
C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発
揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活
用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長
に貢献することができる（B、C）

須長 一幸

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：金・2時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

この授業は、これまで本学の正課外プログラムとして提供されていた「大学から始める「言葉の力」育成プログラム」のコンテンツを中心に、これらを正課科目として展開するものです。

この授業で言う「言葉の力」とは、グループで話し合うための基礎的なルールや技術、論理的な思考の方法、論理的な文章の作成、さまざまな文章の読解、プレゼンテーション、質疑応答、といった言語を用いて行うさまざまなスキルを統合したものを意味します。「言葉の力」を磨くということは、結局のところ、言葉を使って思考・表現するすべての基礎力をアップすると言うことに他なりません。

授業はグループワークを中心にを行います。グループでの活発な議論を通じて、大学での学習に欠かせない「言葉の力」を磨きます。

--- 授業の進行・方法 ---

前述の通り、この授業はグループワークを中心にを行います。授業の前半で教員からのレクチャーがあり、それを承けて後半でワークを行う、という流れが一般的です。学部の異なる学生同士のグループでの活発な議論を重ねていながら、大学での学習に欠かせない「言葉の力」を磨きます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

1. 毎回の授業後のリフレクションの作成を通じて、自分が授業で何をどこまで学んだのか、を把握し、自律的な学習を遂行することができる(DP1-2)(技能)
2. アカデミックな文章の読解のための基礎的なテクニックを用いて、人文科学、社会科学、自然科学のさまざまな領域に関する文書を読み解き、その内容を説明することができる(DP2-1)(技能)
3. 基本的なグループワークの技術を用いて、さまざまな他者と意見交換を行うことができる(DP2-2)(技能)
4. さまざまな「言葉の力」を駆使して、アカデミックな内容にトータルに関わり、議論し、発表し、質問に回答し、文章化することができる(DP4-1)(技能)
5. 身につけた「言葉の力」を用いて、自分だけでなくグループ全体の学習に貢献しながら学習に積極的に関わろうとする(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：事前課題テキストの読解(60分)

予習：事前課題ワークシートの作成(60分)

復習：毎回の授業後の振り返りの作成(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

1. 毎回の振り返り(42%)：到達目標1, 2, 3, 5
2. 各回の課題の提出(20%)：到達目標2, 3, 4
3. グループ活動への貢献度(20%)：到達目標3, 4, 5
4. 最終レポート(18%)：到達目標1, 4, 5

注1) 欠席はグループワークに影響を与えてしまうことがあります。やむを得ない理由によって、事前の連絡を伴う欠席以外は、減点の対象となります(主に授業への参加やグループ活動を前提として評価される配点(上の基準のうち1, 3, 5)から減点)。欠席が4回を超えた場合には不合格になる可能性があります。

注2) ミニツッパーパーやレポートは、必ず期日までに提出して下さい。期日までに提出ができなかった場合、減点の対象となります。

注3) この科目は定期試験を伴わないため、再試験の対象とならないので、注意してください。

--- テキスト ---

テキストは特に定めません。必要な資料があれば、講義中に配布します。

--- 参考書 ---

『福大生のための学習ナビ2024』福岡大学
『「言葉の力」育成の手引』福岡大学教育開発支援機構

--- 履修上の留意点 ---

注意事項は4点あります。

1. この授業は、グループワークが活動の中心を占めます。欠席をすると、同じグループのメンバーに大きな迷惑をかけることをまず十分に理解することが重要です。十分な理由があると認められない欠席や、事前の連絡のない欠席は減点の対象となることに注意してください。グループの人数の均衡を維持するため、欠席の多い学生をやむをえず別のグループへ移動させるということもあります。

2. プレゼンテーションの準備など、講義時間以外にもグループで作業することが必要となる場合があります。グループで連絡を取り合う手段を確保し、スケジュール調整を行っただうえで、作業時間を作れるようにしておいて下さい。

3. グループでの活動状況を把握するため、授業の様子を教員が適宜撮影することがあります。撮影した動画・写真は授業改善や研究等に活用することがありますのであらかじめご了承下さい。撮影されたもののうち、受講生の顔と氏名が同時に分かるようなものや、顔が大きく写っているものについては外部に公表することはありません。また、個人が特定できないよう配慮した上で、受講生が授業内で作成した成果物についても上記の目的で活用することがあります。

4. グループ作業等でPC等を活用します。可能であればノートPCやタブレットを、難しい場合にはスマートフォンを持参するようにしてください

--- 授業計画 ---

- 第1回：イントロダクション(スタートアップ授業)
- 第2回：グループワークの基本姿勢、役割分担
- 第3回：アカデミックな文章の基本的骨格
- 第4回：論理的な文章を組み立てる
- 第5回：問いの立て方、質問の仕方
- 第6回：アカデミックな文章を読むその1
- 第7回：アカデミックな文書を読むその2
- 第8回：プレゼンテーションの基本
- 第9回：話の聴き方、メモの取り方
- 第10回：プレゼンテーションの実践
- 第11回：レポートの書き方その1
- 第12回：レポートの書き方その2
- 第13回：レポートの書き方その3
- 第14回：レポートの相互評価
- 第15回：全体振り返りと授業アンケートFURIKAの実施

アクティブ・ラーニングが型の授業になりますので、受講生の作業の進捗に応じて一部内容や順番が変更されることがあります。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/tm7aht2jdh6cfus8683nt4szw1w917rz>)

須長 一幸

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1. 毎回の授業後のリフレクションの作成を通じて、自分が授業で何をどこまで学んだのか、を把握し、自律的な学習を遂行することができる (DP1-2) (技能)

2.2. アカデミックな文章の読解のための基礎的なテクニックを用いて、人文科学、社会科学、自然科学のさまざまな領域に関する文書を読み解き、その内容を説明することができる (DP2-1) (技能)

3.3. 基本的なグループワークの技術を用いて、さまざまな他者と意見交換を行うことができる (DP2-2) (技能)

4.4. さまざまな「言葉の力」を駆使して、アカデミックな内容にトータルに関わり、議論し、発表し、質問に応答し、文章化することができる (DP4-1) (技能)

5.5. 身につけた「言葉の力」を用いて、自分だけでなくグループ全体の学習に貢献しながら学習に積極的に関わろうとする (DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

安元 佐和、八尋英二、武岡宏明、松末公彦、宮城由美子、佐久間良子、江藤真紀、松本祐佳里、江川孝、小迫知弘、藍原大甫、松尾康平、刀根菜七子、鮎川洋、中野 貴文、上原吉就、重森裕、道下竜馬
 期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：木・5時限 試験時間割：定期試験なし

概要

長寿化が急激に進み、先進国では2007年生まれの2人に1人が100歳を超えて生きる「人生100年時代」が到来すると予測されている。人生100年時代の健康問題を考えるとともに、人生100年時代の教育や保健・医療・福祉などの場において対人援助専門職に求められる能力は何かを探究することは重要である。今大学生として次世代につながるために自身の心身の健康そして環境をどのように整えていくことが今後100年時代を生き抜く力になるのかを、他学部の学生と共に考え授業を通して探求していくことが必要と考える。次世代の多職種連携につなげるために、環境、社会そして健康課題をチームで考えるとともに、対人援助専門職に求められる資質は何かを探究する。

【授業の進め方】 講義だけでなく、医療や健康に関するいくつかのテーマについて学部・学科の垣根を超え、小グループ学習で共に考え討論し、その成果を発表するといったアクティブ・ラーニング（協働学習）を中心とする。

医療、地域、災害地などでの実務経験を持つ医師、看護師、保健師、助産師、薬剤師が、日本および海外の医療、保健福祉の現状について講義を行い、豊富な経験をもとに、学生のアクティブ・ラーニングをファシリテーターとして支援します。

授業の進行・方法

テーマについての講義（40分）

グループで課題について討論する。（30分）

グループ学習の成果の発表準備をする。（20分）

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

次世代につなげるための健康課題を理解する。（DP2-1）(知識・理解)

教育、保健、医療、福祉等の対人援助専門職に求められる能力について討論できる。（DP1-2）(態度・志向性)

協働学習を通して「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を培うことができる。（DP4-1）(技能)

大学時代に何を学ぶか、どう学ぶか、どう活躍するかについて考えることができる。（DP1-1）(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

グループ学習の課題について調べる。（60分）

グループで課題について討論する。（60分）

グループ学習の成果の発表準備をする。（60分）

成績評価基準および方法

・各単元で学習した内容において、次世代につなげるための健康問題及び対人援助専門職に求められる能力について記述できるかを評価基準とする。

・レポートは、複数の文献から情報収集し、分析を加えた上で自分の見解を明確に記述しているかを評価基準とする。

・協働学習では、主体的に参加しているか、課題達成に向けた貢献をしているか、グループ内で良好なコミュニケーションが図れるかを評価基準（ルーブリック）とする。

・評価割合は、レポート（40％）協働学習（60％）とする。

・定期試験を実施しないため、再試験も実施しません。

テキスト

特に指定はしない。必要に応じて資料を配布する。

履修上の留意点

積極的に討論に参加し自分の意見を出すこと、他者の意見や価値観の違いを認め合うこと。

授業計画

1. 「イントロダクション（スタートアップ授業）」
授業の進め方について（医学科 安元佐和）
2. 絵本と子どもの心身の発達（医学科 安元佐和）
3. 次世代に繋げる健康（グループ学習、発表）
（医学科：安元佐和、八尋英二、武岡宏明）
4. 次世代に繋げる健康（グループ発表）
（医学科：安元佐和、八尋英二、武岡宏明）
5. 「プレコンセプションケアー今と未来の自分の健康を考える（講義）」
（看護学科：宮城由美子、佐久間良子、江藤真紀、松本祐佳里）
6. 「人生100年時代を自分らしく生きるために 何をすべきか(グループ討論)」
（看護学科：宮城由美子、佐久間良子、江藤真紀、松本祐佳里）
7. 「人生100年時代を自分らしく生きるために私たちができることプレコン宣言/人生をデザインしてみよう(グループ発表)」(看護学科：宮城由美子、佐久間良子、江藤真紀、松本祐佳里)
8. 災害時の医療体制（薬学部 江川 孝）
9. 災害時の適切な薬の管理（グループ学習、発表）
（薬学部：松末公彦、小迫知弘、藍原大甫、松尾康平、刀根菜七子、鮎川洋、中野 貴文）
10. 災害時の適切な薬の管理（グループ発表）
（薬学部：松末公彦、小迫知弘、藍原大甫、松尾康平、刀根菜七子、鮎川洋、中野 貴文）
11. 人生100年時代の体作り(スポーツ科学部：上原吉就)
12. 健康問題から運動・スポーツを考える（グループ学習、発表）(スポーツ科学部：上原吉就、重森裕、道下竜馬)
13. 健康問題から運動・スポーツを考える（グループ発表）
(スポーツ科学部：上原吉就、重森裕、道下 竜馬)
14. 全体発表会

15. グループ学習成果のまとめ
FURIKA記載
(14, 15の担当教員は、1-13の教員全員)

スタートアップ授業

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/7324tb0dbtqje3p62lrguh8tr71dxdq1>)

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.次世代につなげるための健康課題を理解する。（DP2-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.教育、保健、医療、福祉等の対人援助専門職に求められる能力について討論できる。（DP1-2）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.協働学習を通して「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を培うことができる。（DP4-1）（技能）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.大学時代に何を学ぶか、どう学ぶか、どう活躍するかについて考えることができる。（DP1-1）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

飛田 努

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：金・2時限 試験時間割：2025/01/22 5時限

--- 概要 ---

本講義は、アントレプレナーシップ（企業家精神）と呼ばれる考え方を身につけることで、不確実な将来に向けて今日のようにして意思決定を行うか、リスクに対してどのように向き合うか、他者と協同（コラボレーション）しながら何かを形にしていくこと、リーダーシップは生まれ持ったものではなく、あとから身につけることができるものだといったようなことを学ぶ。そして、それが事業を行うこと、仕事することにつながることを身につけることを目標とする。特に、「失敗」が怖い人にとっては、大学生のうちに小さな失敗を繰り返し経験しておくことで、万が一失敗したとしてもどのように対処すれば良いのかを学ぶことができる。

そこで本講義では、受講生が日頃感じている課題を「ビジネスを通じて解決する」ことを目指して、擬似的に事業案（ビジネスアイデア）を作成することを具体的な最終ゴールに定めている。もちろん、課題がなくても良い。とりえず「起業」だったり、「なにかに挑戦してみたい」という興味関心がある学生であれば良い。講義を受講する学生たちと話をし、グループワークを通じて、「自分にもなにかできるのではないかと感じてもらえれば、それは講義目標の達成になる。

また、講義では起業家・実務家による講演を通じて、「新しい事業を創造する」ことの面白さ、魅力、難しさ、楽しさを知る機会を作る予定である。大学で学んだ専門性をどうやって社会人として生かしていくかを学ぶヒントを得られるような講義にしていきたい。

これまであった事業案

女子中高生向けの下着（女性向け）、わら半紙用の修正テープ、左利き用の筆ペン、女子大生向けの化粧品開発、地域交通の課題（特にお年寄りの移動）、孤食（ぼっち飯）問題など多岐にわたります。

--- 授業の進行・方法 ---

本講義は講義形式をベースとしながら、課題を解決する事業案を創るワークショップも併用して実施します。具体的には受講者で3-6人程度のグループを作り、グループワークを通じて新たな事業案を創出していきます。そのために必要な知識や理論を講義で補足していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

アントレプレナーシップを学習することを通じて、卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につける。(DP1-2)(知識・理解)

新規事業の立案など課題解決を行うため、さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

新規事業立案のリサーチを行うことなどを通じて、さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる。(DP2-2)(技能)

講義やグループワークを通じて身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる。(DP4-1)(知識・理解)

新規事業を立案するワークショップを通じて、チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

講義の事前予習として、テキストの指定箇所を予め読み、理解できていることと理解できていないことを峻別しておく。(60分)

課題発表等がある場合には、事前にレジュメ、報告資料等を作成し、端的に発表できるように準備を行う。(60分)

講義の復習として、講義内でのディスカッション等をふりかえり、どのような学びを得たのか、現在の課題等を認識できるようにする。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

定期試験による評価50%、グループ内での発言や他のメンバーのサポートなど目に見える形での学びの貢献20%、中間・最終プレゼンテーション30%。

試験は、学生がワークショップにおいて各自が作成した社会課題を解決する事業案をベースに執筆したものを評価します。中間・最終プレゼンテーションは担当教員から指定されたプレゼンテーション内容に基づき、講義内で説明する評価基準をベースに評価します。

--- テキスト ---

特に指定しませんが、講義やグループワークの最中に下記の参考書を参考に議論をすることはあります。

--- 参考書 ---

山川恭弘（2020）『全米ナンバーワンビジネススクールで教える起業家の思考と実践術: あなたも世界を変える起業家になる』東洋経済新報社 ISBN 978-4492534229

馬田隆明（2022）『解像度を上げる 曖昧な思考を明晰にする「深さ・広さ・構造・時間」の4視点と行動法』英治出版 ISBN 978-4862763181

--- 履修上の留意点 ---

座学+グループワークを中心とした講義です。また、社会課題を解決できる事業案を作ることが講義の最終目標ですので、（なんでも良いので）課題意識を持って授業に取り組んでください。

--- 授業計画 ---

第1回 講義ガイダンス（スタートアップ授業として行います）
第2回 アントレプレナーシップとコレクティブ・ジーニアス
・本講義を貫く大きなテーマである「アントレプレナーシップ（企業家精神）」と「コレクティブ・ジーニアス（集合天才）」について講義します。

第3回 リスクと不確実性を正しく認識する
・企業家の活動様式に見られる大きな特徴は、事業機会をいかに見出し、リスクと不確実性を考慮しながら事業を構築していくことにあります。この理論について解説します。

第4回 実務家・企業家による講演（1）
・企業家がいかにビジネスを興すという生き方を選んだのかについて、生の声をお聞きして学習します。

第5回 リーダーシップ
・チームを導くリーダーシップという視点だけでなく、自分がいかにチームに貢献できるかという視点の重要性について講義します。

第6回 事業機会の探索
・事業機会をいかに見出すか。その方法論について議論します。この回以降、グループワークが中心になります。

第7回 課題の探索
・機会という抽象的な概念をより具体的な課題に変換していきます。

第8回 課題のリサーチ
・課題がどのような構造になっているのかを明らかにするため、調査を行います。インタビューやアンケートなど、潜在的な顧客に対する調査を行う方法を学習します。

第9回 事業案の発表（1）
・中間報告的にここまでのグループワークで見出した事業アイデアについて発表します。

第10回 優良企業のビジネスモデルを分析する
・自らのビジネスプランを洗練させるため、優良企業がどのようにして事業を構築させているのかを説明していきます。

第11回 顧客ニーズの把握
・ある程度固まったビジネスモデルをベースに顧客が何を望んでいるのかを調査します。

第12回 実務家・起業家による講演（2）
・企業家がいかにビジネスを興すという生き方を選んだのかについて、生の声をお聞きして学習します。

第13回 事業案のブラッシュアップ（1）
・グループワークを中心に最終報告に向けた準備を進めていきます。

第14回 事業案のブラッシュアップ（2）
・グループワークを中心に最終報告に向けた準備を進めていきます。
・FURIKA実施予定

第15回 事業案の発表（2）
・最終報告としてグループごとにビジネスモデルについて報告をします。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/0iahr1uyi2n8gvkfgc3oidvuo81ahjb>)

飛田 努

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.アントレプレナーシップを学習することを通じて、卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につける。（DP1-2）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.新規事業の立案など課題解決を行うため、さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

3.新規事業立案のResearchを行うことなどを通じて、さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる。（DP2-2）（技能）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

4.講義やグループワークを通じて身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる。（DP4-1）（知識・理解）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

5.新規事業を立案するワークショップを通じて、チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる。（DP4-2）（態度・志向性）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

橋場 論、紺田広明 鈴木学 須長一幸

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義及び演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し

授業時間割：前期：水・5 時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

この科目では、一般的な講義形式ではなく、課題解決型学習（PBL：Project-Based Learning）の経験を通して、自分で考え自分で行動することを意識しながら、社会的なかで主体的に関わって生きていく上での活動を仲間とともに実体験することを目的としています。

授業ではまず、グループで活動するための基礎的なスキル（グループワークの基礎、話の聴き方、質問の仕方、企画書の書き方、振り返りの仕方、プレゼンの仕方、等）を学び、それを踏まえて今日的・現実的・複合的な課題を探索します。続いて、発見した課題のその解決・改善策を企画書としてまとめ、グループでの調査やディスカッションを重ねて企画書をブラッシュアップしたうえで、最終案を発表します。

以上のようなグループ活動を通じて、社会には多様な考え方や価値観を持った他者が存在していることについて理解を深め、そのような多様性を持つ他者と協働するには各人の違いを尊重することが必要であることを身をもって経験することで、「多様性」に対する理解や「協働性」の獲得を目指します。

- - - 授業の進行・方法 - - -

この授業では、前述の通り、課題解決型学習と呼ばれる経験を通じて、受講生の皆さんに学びを深めてもらいたいと考えています。授業前半では、教員のレクチャーを踏まえたディスカッション等の活動が多く取り入れられる予定です。授業後半では、グループのメンバーと共に、設定された課題に対する提案をまとめてもらうこととなります。なお、授業中に、パソコンを使って作業をしてもらうことがあります。教室に配置されているパソコンはありませんので、各自で準備するようにしてください。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

社会の特徴や課題が何か説明できる(DP2-1)(知識・理解)

他者と協働して活動する上で何が必要であるかを説明できる(DP2-2)(知識・理解)

社会的な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを発揮できる(DP4-1)(技能)

自立した社会人として成長していくためのスキルを発揮できる(DP1-2)(技能)

解決が容易ではない課題に対しても、粘り強く取り組もうとすることができる(DP3-2)(態度・志向性)

共同体に貢献しようという姿勢を持ちながら活動に参加できる(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：課題の解決に関する企画立案作業の準備(90分)

復習：毎回の授業後の振り返りの作成(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

1. 毎回の振り返り（56%：4%×14）：その回の授業でどのような活動を行ったかを客観的に記述し、その上で何を学んだか、どのような課題があったか、今後どうするか、をわかりやすく書けているか、また課題の解決に向けて継続的に取り組んでいるか

2. 各回の課題（毎回の振り返りを除く）の提出（10%）：授業で課された課題に対して、適切に回答し、期限内に提出できたか

3. プレゼンテーションへの評価結果(15%)：社会の課題を踏まえて、その解決に向けて分かりやすく効果的な提案をチームとして行っているか。

4. 最終レポート（19%）：以下の2つについて、適切に表現できているか。社会の特徴や課題を踏まえ、自分がこの授業で何を学びその後の成長のためにどうすべきか、他者と協働する難しさを踏まえ、協働に向けて何が必要か。

注1）欠席はグループワークに影響を与えてしまうことがあります。やむを得ない理由によって、事前の連絡を伴う欠席以外は、減点の対象となります（主に授業への参加やグループ活動を前提として評価される配点（上の基準のうち1、2、3）から減点）。欠席が4回を超えた場合には不合格になる可能性があります。

注2）ミニツッパーパーやレポートは、必ず期日までに提出して下さい。期日までに提出ができなかった場合、減点の対象となります。

注3）この科目は定期試験を伴わないため、再試験の対象とならないので、注意してください。

- - - テキスト - - -

テキストは特に定めません。必要な資料があれば、講義中に配布します。

- - - 参考書 - - -

『福大生のための学習ナビ2024』福岡大学

『「言葉の力」育成の手引』福岡大学教育開発支援機構

- - - 履修上の留意点 - - -

注意事項は4点あります。

1. この授業は、グループワークが活動の中心を占めます。欠席をすると、同じグループのメンバーに大きな迷惑をかけてしまうことをまず十分に理解することが重要です。十分な理由があると認められない欠席や、事前の連絡のない欠席は減点の対象となることに注意してください。グループの人数の均衡を維持するため、欠席の多い学生をやむをえず別のグループへ移動させるということもあります。

2. プレゼンテーションの準備など、講義時間以外にもグループで作業することが必要となる場合があります。グループで連絡を取り合う手段を確保し、スケジュール調整を行ったうえで、作業時間を作れるようにしておいて下さい。

3. 授業中にパソコンを使って作業をしてもらうことがあります。特に高性能のパソコンである必要はありませんが、PowerPointの資料を作成してもらい予定です。（パソコンを持ってきてもらう授業回については事前に指示をします。）

4. グループでの活動状況を把握し、授業の運営を円滑なものとするを目的として、授業の様子を教員が適宜写真や動画として撮影することがありますので、予めご了承ください。（上記の目的以外には使用しません。）また、受講生が授業内で作成・提出した成果物（例えば、振り返りなど）については、個人が特定できないよう配慮した上で、授業において使用したり、授業改善を目的とした研究のために使用させていただくことがあります。

- - - 授業計画 - - -

第1回：イントロダクション（スタートアップ授業）[橋場、紺田、須長]

第2回：グループワークの方法その1（グループワークの基本姿勢、役割分担）[橋場、紺田、須長]

第3回：グループワークの方法その2（プレゼンの仕方、質問の仕方、メモの取り方）[橋場、紺田、須長]

第4回：グループワークの方法その3（問いの見つけ方、文書のまとめ方）[橋場、紺田、須長]

第5回：グループワークの方法その4（課題をテーマに議論する）[橋場、紺田、須長]

第6回：福岡大学について知る[橋場、紺田、須長]

第7回：第1次プレゼンへの準備[橋場、紺田、須長]

第8回：第1次プレゼンへの準備[橋場、紺田、須長]

第9回：第1次プレゼンへの準備[橋場、紺田、須長]

第10回：第1次プレゼン[橋場、紺田、須長]

第11回：最終プレゼンへの準備[橋場、紺田、須長]

第12回：最終プレゼンへの準備[橋場、紺田、須長]

第13回：最終プレゼンへの準備[橋場、紺田、須長]

第14回：最終プレゼンテーション[橋場、紺田、鈴木、須長]

第15回：最終プレゼンテーションへの講評と全体振り返り（授業アンケートFURIKAの実施）[橋場、紺田、須長]

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

<https://fukuoka-u.box.com/s/p9acwrclt4zc3uilbjqusit2wh1lcrus>

橋場 論、紺田広明 鈴木学 須長一幸

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.社会の特徴や課題が何か説明できる (DP2-1) (知識・理解)
- 2.他者と協働して活動する上で何が必要であるかを説明できる (DP2-2) (知識・理解)
- 3.社会的な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを発揮できる (DP4-1) (技能)
- 4.自立した社会人として成長していくためのスキルを発揮できる (DP1-2) (技能)
- 5.解決が容易ではない課題に対しても、粘り強く取り組もうとすることができる (DP3-2) (態度・志向性)
- 6.共同体に貢献しようという姿勢を持ちながら活動に参加できる (DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

重松 幹二（工・化学システム工学）、松井渉（日本気象協会）、高山肇夫（工・建築）、佐藤研一（工・社会デザイン工学）、柴田久（工・社会デザイン工学）、高橋淳夫（読売新聞社）、矢守克也（京都大学防災研究所）、伊藤豪（商）、岩永和代（医・看護）
期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・5時限 試験時間割：2025/01/22 5時限

概要

平成7年の阪神・淡路大震災、平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震、そして令和6年元旦の能登半島地震と、甚大な災害が国内で発生した。一方福岡では、平成11年および15年に御笠川氾濫における博多駅周辺の水害、平成17年には福岡県西方沖地震が発生し、安全とされていた福岡市内でも日頃から災害に対して高い注意意識が必要であることが明らかとなった。また、将来関東・東海・関西などに就職する学生にとっても、大学で防災・減災に関する知識を身に付けておくことは極めて重要である。

この講義では、防災に関する基礎知識を学ぶことにより、災害から自分や家族を守る術、被害を最小にする準備と対応方法を修得する。特に、
・自助（自分や家族の命はまず自分たちで守らなければならない）
・共助（被災した近所の人を助けることの重要性）
・公助（公的機関による救援行動の大災害時における脆弱さ）
の考え方を柱とし、各トピックスを理解することで、一生涯役に立つ教養を身に付けることができる。

講義は学内の各学部の教員に加え、多方面の外部講師によるオムニバス形式で進められ、文系理系両側面から防災に関する知識を広く得ることに特徴がある。実務経験者の講師として、松井渉は気象予報士であるとともにNHKの気象ニュースキャスターを担当しており、気象予報の仕組みや自然災害全般に関する講義を行う。高橋淳夫は読売新聞社の記者として東日本大震災や原発事故の取材経験があり、報道機関の取材行動や記事のまとめ方、取材を通して得られた災害周辺状況について講義する。また、福岡市消防局の中村翔および福岡市市民局地域防災課の矢野貴広をゲストスピーカーとして呼び、災害に対する行政機関の考え方と市民への期待を講義する。

授業の進行・方法

本授業は講義形式で進め、毎回小テストを課す。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

自然災害の発生メカニズムと想定される被害、気象予報の仕組みを知ることで警報や注意報などの用語を正しく理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

「自助・共助・公助」の意味とそこで発生しうる問題点、市役所や消防局の事前対策と発災時の行動を理解することで、個人としてより良い対応を考える力を身に付けることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

災害発生時の初動およびその後の復旧・復興に必要な行動を理解することで、卒業後にどのような職業に就いても、どのような地域に居ても、防災や減災に対する志向力を身に付けることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

防災が闘う最大の敵は自然災害ではなく個人の「正常化の偏見（正常性バイアス）」であることを知り、総合的な知識と想像力、多角的な視野が必要であることを理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

自分や家族のみならず、社会全体の安全に対する高い倫理観を持ち、短期的・長期的な行動に移すことができる。(DP2-2)(態度・志向性)

既存の学問分野や既存の知識とらわれず、想像力を養うことで、防災や減災には1つの正しい答えはなく、相手の立場を理解してより良い選択を探し出す技能を身に付けることができる。(DP4-1)(技能)

防災や減災に限らず、日ごろから積極的に地域社会に参画・貢献できる人物へと成長することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

次の授業のために必要な予習内容を指示するので、90分程度の予習の時間を要する。(90分)

授業終了後に毎回小テストを行うとともに、解答締切後に正答をFU_boxを利用して配布するので、90分程度の復習を行うこと。(90分)

成績評価基準および方法

授業終了後、毎回FUポータルを利用した選択問題あるいは記述問題による小テストを実施する。その日の個別の授業内容が理解できたかを評価の基準とする。単に出席しただけでは評価しない。

定期試験では、災害から自分を守る、災害の状況を知る、地域を守る、災害と社会システム、いのちを守る、の各項目の知識およびそれらを統合した知識が得られたかを評価の基準とする。

定期試験(70%)と毎回行う小テスト(30%)を総合して最終成績とする。

テキスト

プリントを配布する。

また、FU_boxに受講者専用のフォルダを設け、手元のスマホを使って授業中でもスライドを閲覧できるようにする。

履修上の留意点

緊急時には対策本部や災害現場に出動しなければならない講師が多いため、急な休講や講義順が変更となる場合がある。休講となった場合は補講を行うので、掲示板に注意すること。

授業計画

- [防災意識の必要性] 自助・共助・公助（重松）＜スタートアップ授業＞
- [災害の状況を知る] 気象予報、警報・注意報（松井）
- [災害から自分を守る] 過去の大震災や風水害からの教訓（高山）
- [災害から自分を守る] ライフラインの被害想定と断絶時対応（佐藤）
- [災害の状況を知る] 最近の自然災害（福岡県西方沖地震、御笠川）（松井）
- [災害と社会システム] 都市災害、防災計画・技術、災害とインフラ・デザイン（柴田）
- [災害から自分を守る] 個人の平常時の準備と災害時対応（重松・ゲストスピーカー：中村）
- [地域を守る] 防災関係機関の対応（重松・ゲストスピーカー：矢野）
- [地域を守る] 地域の防災活動、自主防災組織、消防団活動（重松・ゲストスピーカー：中村）
- [災害の状況を知る] 災害に対する報道機関の取り組み（高橋）
- [災害と社会システム] 被災社会の多様性（高橋）
- [いのちを守る] 災害心理、被災者の行動意識（矢守）
- [災害と社会システム] 災害と損害保険（伊藤）
- [いのちを守る] 災害医療、トリアージ、高齢者・乳幼児対応（岩永）
- [防災活動の必要性] 防災活動の必要性、私達にできること、授業アンケートFURIKAの実施（重松）

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/rijyg3jge7ggmd27dcdv0dn13ix8x0uu5>)

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.自然災害の発生メカニズムと想定される被害、気象予報の仕組みを知ること
で警報や注意報などの用語を正しく理解することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.「自助・共助・公助」の意味とそこで発生しうる問題点、市役所や消防局の
事前対策と発災時の行動を理解することで、個人としてより良い対応を考える
力を身に付けることができる。(DP1-2) (態度・志向性)

3.災害発生時の初動およびその後の復旧・復興に必要な行動を理解すること
で、卒業後にどのような職業に就いても、どのような地域に居ても、防災や減
災に対する志向力を身に付けることができる。(DP1-2) (態度・志向性)

4.防災が闘う最大の敵は自然災害ではなく個人の「正常化の偏見(正常性バイ
アス)」であることを知り、総合的な知識と想像力、多角的な視野が必要であ
ることを理解することができる。(DP2-1) (知識・理解)

5.自分や家族のみならず、社会全体の安全に対する高い倫理観を持ち、短期
的・長期的な行動に移すことができる。(DP2-2) (態度・志向性)

6.既存の学問分野や既存の知識にとらわれず、想像力を養うことで、防災や減
災には1つの正しい答えはなく、相手の立場を理解してより良い選択を探し出
す技能を身に付けることができる。(DP4-1) (技能)

7.防災や減災に限らず、日ごろから積極的に地域社会に参画・貢献できる人物
へと成長することができる。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、
B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている
(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い
視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事
を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔
軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、
C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発
揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活
用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長
に貢献することができる(B、C)

須長 一幸、橋場論、紺田広明、鈴木学

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義及び演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し

授業時間割：後期：月・5 時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

この科目は、一般的な講義形式ではなく、体験型学習（PBL：Project-Based Learning）を通して、自分で考え自分で行動することを意識しながら、社会のなかで主体的に関わって生きていく上での活動を仲間とともに実体験することを目的としています。

授業ではまず、グループで活動するための基礎的なスキル（グループワークの基礎、話の聴き方、質問の仕方、企画書の書き方、振り返りの仕方、プレゼンの仕方、等）を学び、それを踏まえて今日の・現実的・複合的な課題を探索します。続いて、発見した課題のその解決・改善策を企画書としてまとめ、グループでの調査やディスカッションを重ねて企画書をブラッシュアップしたうえで、最終案を発表します。

以上のようなグループ活動を通じて、社会には多様な考え方や価値観を持った他者が存在していることについて理解を深め、そのような多様性を持つ他者と協働するには各人の違いを尊重することが必要であることを身をもって経験することで、「多様性」に対する理解や「協働性」の獲得を目指します。

--- 授業の進行・方法 ---

この授業では、前述の通り、課題外欠型学習と呼ばれる経験を通じて、受講生の皆さんに学びを踏まえてもらいたいと考えています。授業前半では、教員のレクチャーを踏まえたディスカッション等の活動を多く行う予定です。授業後半では、グループのメンバーとともに、設定された課題に対する提案をまとめてもらうこととなります。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

1. 社会の特徴や課題が何か説明できる(DP2-1)(知識・理解)
2. 他者と協働して活動する上で何が必要であることを説明できる(DP2-2)(知識・理解)
3. 社会的な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを発揮できる(DP4-1)(技能)
4. 自立した社会人として成長していくためのスキルを発揮できる(DP1-2)(技能)
5. 解決が容易ではない課題に対しても、粘り強く取り組もうとすることができる(DP3-2)(態度・志向性)
6. 共同体に貢献しようという姿勢を持ちながら活動に参加できる(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：課題の解決に関する企画立案作業の準備(90分)

復習：毎回の授業後の振り返りの作成(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

1. 毎回の振り返り（56%：4%×14）：その回の授業でどのような活動を行ったかを客観的に記述し、その上で何を学んだか、どのような課題があったか、今後どうするか、をわかりやすく書いているか、また課題の解決に向けて継続的に取り組んでいるか
2. 各回の課題（毎回の振り返りを除く）の提出（10%）：授業で課された課題に対して、適切に回答し、期限内に提出できたか
3. プレゼンテーションへの評価結果(15%)：社会の課題を踏まえて、その解決に向けて分かりやすく効果的な提案をチームとして行っているか。
4. 最終レポート（19%）：以下の2つについて、適切に表現できているか。社会の特徴や課題を踏まえ、自分がこの授業で何を学びその後の成長のためにどうすべきか、他者と協働する難しさを踏まえ、協働に向けて何が必要か。

注1) 欠席はグループワークに影響を与えてしまうことがあります。やむを得ない理由によって、事前の連絡を伴う欠席以外は、減点の対象となることがあります（主に授業への参加やグループ活動を前提として評価される配点（上の基準のうち1、2、3）から減点）。欠席が4回を超えた場合には不合格になる可能性があります。

注2) ミニツッパーパーやレポートは、必ず期日までに提出して下さい。期日までに提出ができなかった場合、減点の対象となります。

注3) この科目は定期試験を伴わないため、再試験の対象とならないので、注意してください。

--- テキスト ---

テキストは特に定めません。必要な資料があれば、講義中に配布します。

--- 参考書 ---

『福大生のための学習ナビ 2024』福岡大学

『「言葉の力」育成の手引』福岡大学教育開発支援機構

--- 履修上の留意点 ---

注意事項は3点あります。

1. この授業は、グループワークが活動の中心を占めます。欠席をすると、同じグループのメンバーに大きな迷惑をかけてしまうことをまず十分に理解することが重要です。十分な理由があると認められない欠席や、事前の連絡のない欠席は減点の対象となることに注意してください。グループの人数の均衡を維持するため、欠席の多い学生をやむをえず別のグループへ移動させるということもありません。

2. プレゼンテーションの準備など、講義時間以外にもグループで作業することが必要となる場合があります。グループで連絡を取り合う手段を確保し、スケジュール調整を行ったうえで、作業時間を作れるようにしておいて下さい。

3. グループでの活動状況を把握するため、授業の様子を教員が適宜撮影することがあります。撮影した動画・写真は授業改善や研究等に活用することがありますのであらかじめご了承下さい。撮影されたもののうち、受講生の顔と氏名が同時に分かるようなものや、顔が大きく写っているものについては外部に公表することはありません。また、個人が特定できないよう配慮した上で、受講生が授業内で作成した成果物についても上記の目的で活用することがあります。

--- 授業計画 ---

第1回：イントロダクション（スタートアップ授業）[須長, 橋場, 紺田]

第2回：グループワークの方法その1（グループワークの基本姿勢、役割分担）[須長, 橋場, 紺田]

第3回：グループワークの方法その2（プレゼンの仕方、質問の仕方、メモの取り方）[須長, 橋場, 紺田]

第4回：グループワークの方法その3（問いの見つけ方、文書のまとめ方）[須長, 橋場, 紺田]

第5回：グループワークの方法その4（課題をテーマに議論する）[須長, 橋場, 紺田]

第6回：福岡大学について知る [須長, 橋場, 紺田]

第7回：第1次プレゼンへの準備 [須長, 橋場, 紺田]

第8回：第1次プレゼンへの準備 [須長, 橋場, 紺田]

第9回：第1次プレゼンへの準備 [須長, 橋場, 紺田]

第10回：第1次プレゼン [須長, 橋場, 紺田]

第11回：最終プレゼンへの準備 [須長, 橋場, 紺田]

第12回：最終プレゼンへの準備 [須長, 橋場, 紺田]

第13回：最終プレゼンへの準備 [須長, 橋場, 紺田]

第14回：最終プレゼンテーション [須長, 橋場, 紺田, 鈴木]

第15回：最終プレゼンテーションへの講評と全体振り返り、および授業アンケートFURIKAの実施 [須長, 橋場, 紺田]

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(https://fukuoka-u.box.com/s/6vas3sx6hfis3m6koapucfdyrg6u1six)

須長 一幸、橋場論、紺田広明、鈴木学

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1. 社会の特徴や課題が何か説明できる (DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】2.2. 他者と協働して活動する上で何が必要であるかを説明できる (DP2-2)
(知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.3. 社会的な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを發揮できる (DP4-1) (技能)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.4. 自立した社会人として成長していくためのスキルを發揮できる (DP1-2)
(技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.5. 解決が容易ではない課題に対しても、粘り強く取り組もうとすることができる (DP3-2) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

6.6. 共同体に貢献しようという姿勢を持ちながら活動に参加できる (DP4-2)
(態度・志向性)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを發揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山本 俊浩、柳橋 泰生、木下 幸治、為田 一雄、武下 俊宏、星野 篤、岡田 義広、田代 武夫

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：水・5時限 試験時間割：2025/01/15 3時限

概要

本講義は、現在、国際的な課題として挙げられている「持続可能な開発目標（SDGs）」の一つでもある「持続可能な生産と消費」に関する理解を深め、社会的良識と幅広い視野を持つことを目指すという観点から、国及び地方における環境行政の現状、各種資源のリサイクル、廃棄物処理問題の現状と課題、化学物質による環境汚染等を学びます。

具体的な内容は以下のとおりです。

（１）環境省で環境行政に従事していた教員がその経験を活かし、持続可能な社会の構築に向けた国（環境省）の取組み、地方における環境行政については（２）元福岡市環境局職員から福岡市のごみ行政、アジア地域への廃棄物分野の技術移転及び国際協力等、（３）現北九州市職員から北九州の環境行政について学びます。また、各種資源のリサイクルに関しては（４）製品の資源採取から廃棄までを総合的に評価し、環境への負荷を最小にしようとする試みの紹介と材料リサイクルの現状と課題、さらに各種リサイクル法について、特に、（５）建設廃棄物のリサイクル、（６）企業において家電リサイクルに従事している実務経験を活かした解説から家電リサイクルの現状と問題点について理解します。（７）環境コンサルタントで研究開発に従事していた教員が廃棄物処理処分に関する計画設計および事業化等の実務経験を活かした解説により、わが国の廃棄物処理等の現状とこれからのあり方について、さらに（８）国内で発生し社会問題となった化学物質による環境汚染や健康被害についても学びます。

授業の進行・方法

講義は、専門分野の異なる８人の教員が担当するオムニバス形式です。それぞれの担当者が作成したパワーポイントを用いて講義形式での授業を実施します。講義資料は、事前にFUポータル上にアップロードしますので、確認してください。また、教員によっては当日、教室で配布する場合があります。毎回の授業内容を理解したかを確認するために小テストを実施します。また、定期試験と同じ形式で、途中、それまでの講義内容の理解度を確認するために中間テストを実施します。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

国および各地方自治体（具体的には福岡市と北九州市）による環境政策の取り組みを理解することができるようになる。（DP2-1）(知識・理解)

各リサイクル法や廃棄物処理処分がどのような背景、目的のもと実施されているかを知ることができるようになる。（DP2-1）(知識・理解)

国および各地方自治体（具体的には福岡市と北九州市）によって環境政策の取り組みは異なり、各種リサイクルにおいても、その産業界の歴史、対象品目、立場によってどのような手法が最適か、実際にどのようなリサイクル手法がとられているかは異なることを学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。（DP2-2）(技能)

先行事例を理解することで、新たな課題に対してどのような解決策があるのかを身につけた知識を相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができるようになる。（DP4-1）(技能)

環境問題について、テレビ、インターネット、新聞、雑誌等で多くの情報が発信されているが、幅広い環境問題を意識しなければその情報を得ることはできない。この講義を通じて、環境問題に関する情報を日常的に取得し、考えられるようになる。（DP1-2）(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習

FUポータルの講義内容を確認し、配布資料のある講義はその内容を、配布資料のない講義はインターネット等で関連事項を調べておいてください。（90分）

復習

授業の最後に小テストを実施するので理解できなかったところを復習しておいてください。

特に、各自、小テストの模範解答をその日の講義資料やノートおよび関係する参考資料をもとに作成しておいてください。（90分）

成績評価基準および方法

到達目標が達成できているかを確認するため、国および地方自治体の環境に対する取り組みや各種資源のリサイクル、廃棄物処理問題の現状と課題についての基礎知識が得られているかを総合的に評価します。

配分は以下の通りです。

小テスト 30%：各担当が講義の最後に行う小テスト
中間試験 30%
定期試験 40%

を目安に総合的に判断します。

テキスト

特に定めなし。講義資料は、事前にFUポータル上にアップロードするか、当日、教室で配布します。

参考書

各担当者が、各自の担当範囲で適宜紹介する。

履修上の留意点

この講義は、資源循環と地球環境問題についての基本的な考え方及び実務者の立場からみた現状と課題について理解することを目的としている。現代社会の課題等を勉強することを目的に受講する場合は問題ないが、卒業単位を得るために受講する場合は、定期試験の結果のみで評価せず、毎回の授業で実施する小テストや中間試験の成績が重要になるため、就職活動等で欠席が多い場合は単位取得は困難と思われる。この点を考慮して履修登録してください。

授業計画

- 1 イントロダクション：
スタートアップ授業（動画配信）
（担当） 山本 俊浩（工学部）
- 2 材料リサイクルの現状と課題（１）
循環型社会形成基本計画を具体的事例で紹介
（担当） 山本 俊浩（工学部）
- 3 持続可能な社会の構築に向けた
我が国の取組（１） 脱炭素社会実現への取組
（担当） 柳橋 泰生（工学部）
- 4 持続可能な社会の構築に向けた
我が国の取組（２）
自然共生社会および循環型社会構築に向けた取組
（担当） 柳橋 泰生（工学部）
- 5 家電リサイクルの現状と課題
（担当）星野 篤（西日本家電リサイクル(株)）
- 6 北九州市の環境行政
（担当） 岡田 義広（北九州市役所）
- 7 建設副産物におけるリサイクルの現状と課題(１)
建設リサイクル法の概要について
（担当） 木下 幸治（工学部）
- 8 中間評価
（担当） 柳橋 泰生（工学部）
- 9 建設副産物におけるリサイクルの現状と課題(２)
建設廃棄物のリサイクル技術について
（担当） 木下 幸治（工学部）
- 10 材料リサイクルの現状と課題（２）
各個別リサイクル法と
プラスチックリサイクルについて
（担当） 山本 俊浩（工学部）
- 11 廃棄物処理問題の現状と課題（１）
住民合意形成と環境アセスメントについて
（担当） 為田 一雄（工学部）
- 12 福岡市のごみ行政の現状と課題
（担当） 田代 武夫（元福岡市環境局）
- 13 廃棄物処理問題の現状と課題（２）
廃棄物処理処分及び最終処分場について
（担当） 為田 一雄（工学部）
- 14 化学物質による環境汚染と健康被害
（担当） 武下 俊宏（工学部）
- 15 授業評価・授業アンケートFURIKAの実施など
（担当） 山本 俊浩（工学部）

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/oir871d9bdasxwni9ushjqvdsr1sngwq>)

山本 俊浩、柳橋 泰生、木下 幸治、為田 一雄、武下 俊宏、星野 篤、岡田 義広、田代 武夫

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 国および各地方自治体（具体的には福岡市と北九州市）による環境政策の取り組みを理解することができるようになる。（DP2-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 各リサイクル法や廃棄物処理処分がどのような背景、目的のもと実施されているかを知ることができるようになる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3. 国および各地方自治体（具体的には福岡市と北九州市）によって環境政策の取り組みは異なり、各種リサイクルにおいても、その産業界の歴史、対象品目、立場によってどのような手法が最適か、実際にどのようなリサイクル手法がとられているかは異なることを学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる。（DP2-2）（技能）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

4. 先行事例を理解することで、新たな課題に対してどのような解決策があるのかを身につけた知識を相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができるようになる。（DP4-1）（技能）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

5. 環境問題について、テレビ、インターネット、新聞、雑誌等で多くの情報が発信されているが、幅広い環境問題を意識しなければその情報を得ることはできない。この講義を通じて、環境問題に関する情報を日常的に取得し、考えられるようになる。（DP1-2）（態度・志向性）

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

渡邊 裕一、大槻かおり、緒方義広、星乃治彦、山田良介、後藤富和

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・5 時間 試験時間割：2025/01/22 5 時間

--- 概要 ---

本講義では、様々な分野から講師を招き、それぞれの専門的な立場から「グローバルな平和論」に関する講義を行ってまいります。キーワードは「戦争と平和」「核兵器・原発」「東アジア」です。いずれも重要かつ明確な答えのない複雑なテーマですが、それぞれを「自分の問題」として捉え、多様な視点から掘り下げて考えることのできる能力を身につけて下さい。

まず総論として、現代の国際社会で大きな問題となっている「戦争と平和」についての概略を学んだうえで、自然科学の成果にもとづいて核兵器の原理と作用・危険性について学びます。核兵器について考えるさい、「ヒロシマ・ナガサキ」の歴史的経験をどう捉えるべきかという重要な問題が私たちの前に立ちはだかります。「ヒロシマ・ナガサキ」の現時点における世界的な意味を浮き彫りにするため、「記憶」の問題として実際の被爆者の「語り」に耳を傾け、それを「語り継ぐ」ことの重要性を考えてもらいます。戦争の記憶を考えるうえで、戦時性暴力の問題も避けておられません。そこで、「戦争とジェンダー」についても学びます。次に、これから東アジアと友好的な関係を作り上げていこうとする観点から、「被害者」の観点と同時に「加害者」としての観点を入れて日本の「過去」の問題を扱います。そのさい、日本の平和認識だけでは限界がありますので、グローバルな視野を培うために、ここでは韓国や中国など東アジアからの視点を重視して考察を深めます。また平和という観点から憲法9条の問題を取り上げ、さらに共生という課題を考えるために在日コリアン・朝鮮学校の歴史と現在についても学びます。最後に、核の平和利用といわれる「原子力発電」について、その歴史を踏まえ、フクシマの原発事故とその後について学びます。

以上の講義全体を通じて、いま私たちが生きている「福岡」という地域がどのような位置を占めているのか、過去、現在、未来を見据えながら、グローバルとローカルの双方の視点から考えていただきたいと思います。

* 実務経験がある教員について

本講義では、各分野で活躍され、実務経験を有する教員にも授業をご担当いただきます。第11回、第12回をご担当いただく後藤富和先生には、弁護士として自ら関わってこられた「中国人強制連行・強制労働事件」について講義いただきます。その他、被爆体験者のゲストスピーカー等もお招きする予定です。

--- 授業の進行・方法 ---

授業の進め方や学習の方法

本授業は、オムニバスの講義形式にて実施します。毎回の授業内容を確認するために Moodle を用いた課題提出に取り組んでいただきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

「戦争と平和」「核兵器・原発」「東アジア」について、歴史的な経緯を踏まえた客観的な知識を身につけ、その今日的な問題点や課題について正確に理解することができる。(DP1-2)(知識・理解)

現在の日本社会でも多様な見解が存在する諸問題について、各分野の専門家による解説を踏まえ、それぞれの歴史的な背景や経緯を理解したうえで論理的・客観的に思考することができるようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

グローバルおよびローカルの両視点から、「核兵器」や「平和」のありかたについて考えられるようになり、問題の解決や将来的な展望について自らの言葉で発信することができるようになる。(DP4-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

日ごろからニュースや新聞に接し、問題意識をもって授業に臨んでください。予備知識や予習は特に必要ありませんが、毎回の授業後は、各自で内容の復習を行い、授業の内容の正確な把握に努めてください。疑問点や質問等があれば、Moodle課題にご記載ください。(180分)

--- 成績評価基準および方法 ---

毎回の授業後に提出するコメントシート30%、定期試験70%により評価します。試験では、授業で扱った各テーマについて、今現在何が問題となっているかを正確に理解し、問いに対する答えを論理的・客観的な文章で説明できているか否かを評価の重要な基準とします。

--- テキスト ---

特になし。授業では適宜レジュメを配布します。

--- 履修上の留意点 ---

第1回目の授業で注意点を述べます。私語・飲食は厳禁です。欠席・遅刻に注意し、各講義のあとは復習を忘れないようにしてください。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）（渡邊裕一・本学人文学部）
 2. 総論 戦争と平和（星乃治彦・本学名誉教授）
 3. 自然科学から見た核兵器（大槻かおり・本学理学部）
 4. 自然科学から見た核兵器（大槻かおり・本学理学部）
 5. 語り継ぐ被爆体験（渡邊裕一・本学人文学部 / ゲストスピーカー・岡崎満也さん）
 6. 戦争とジェンダー（星乃治彦・本学名誉教授）
 7. 中間まとめ（渡邊裕一・本学人文学部）
 8. 新しい平和運動（渡邊裕一・本学人文学部 / ゲストスピーカー・木村公一さん）
 9. 東アジアの歩み 日韓関係その1（山田良介・九州国際大学）
 10. 東アジアの歩み 日韓関係その2（緒方義広・本学人文学部）
 11. 中国人強制連行問題（後藤富和・弁護士）
 12. 憲法9条の現在（後藤富和・弁護士）
 13. 在日コリアン・朝鮮学校の歴史と現在（渡邊裕一・本学人文学部 / ゲストスピーカー・金敏寛さん）
 14. 原子力発電の歴史（渡邊裕一・本学人文学部）
 15. 新しい災害リスク フクシマ原発事故とその後・授業アンケートFURIKAの実施（渡邊裕一・本学人文学部）
- * ゲストスピーカーのご予定や進捗具合によって変更の可能性がございます。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/nk9ork8f8llcoy6bi412cj7pq4r3hgur>)

渡邊 裕一、大槻かおり、緒方義広、星乃治彦、山田良介、後藤富和

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 「戦争と平和」「核兵器・原発」「東アジア」について、歴史的な経緯を踏まえた客観的な知識を身につけ、その今日的な問題点や課題について正確に理解することができる。(DP1-2) (知識・理解)

2. 現在の日本社会でも多様な見解が存在する諸問題について、各分野の専門家による解説を踏まえ、それぞれの歴史的な背景や経緯を理解したうえで論理的・客観的に思考することができるようになる。(DP2-1) (態度・志向性)

3. グローバルおよびローカルの両視点から、「核兵器」や「平和」のありかたについて考えられるようになり、問題の解決や将来的な展望について自らの言葉で発信することができるようになる。(DP4-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

辻部 大介、堺 雅志、浦上 雅司、西村 道也、藤井 雅人、太記 祐一、田上 響、東原 正明

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
授業時間割：後期：月・5時限 試験時間割：2025/01/22 5時限

- - - 概要 - - -

専門分野を異にする8名の教員(人文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、スポーツ科学部所属の専任教員)が、おのおの1~2回の講義を担当し、地中海世界から北方ヨーロッパ、中央ヨーロッパにおよび各地域に、また、地理、歴史、美術、宗教、言語、スポーツ、政治、建築といった諸分野にまたがる、ヨーロッパの社会や文化の諸相を、学生の知的欲求にうったえうるさまざまな個別的事例に基づいて講義します。現代ヨーロッパだけでなく、現代ヨーロッパを作りあげる基盤となった古代、中世、ルネサンスといった過去の時代の社会や文化についてもとりあげていきます。個々の事象を例示するにあたっては、日本との比較・対照をうながし、日本の社会や文化の現状に対する問いかけを動機づけます。初回(スタートアップ授業)と終回の授業では、統括責任者2名が、各講義の連関および授業全体の意義について受講者それぞれが考察をめぐらすための視点を提供します。

なお、東原の担当回(第12・13回目)においては、在オーストリア日本大使館専門調査員としての実務経験によって得られた、現代オーストリアの諸政治勢力の動向等に関する調査結果を活用した講義が行われます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、各教員が作成した講義資料(主としてスライド)をもとに、講義形式で行います。毎回の授業後に、Microsoft Formsを用いてミニッツペーパーを提出してもらいます。そこで寄せられた感想や質問について、授業冒頭で簡単なフィードバックを行うこともあります。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

ヨーロッパ社会のありようをヒントに今後の日本社会について考えていくための視座を得ようとする志向性を有している。(DP1-2)(態度・志向性)

ヨーロッパについて、地理・歴史・美術・宗教・言語・スポーツ・政治・建築の諸分野にまたがる幅広い知識を獲得している。(DP2-1)(知識・理解)

講義で身につけた知識をもとに、自らの考察を明瞭に記述することができる。(DP4-1)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業時にとったノートを読み返し、授業内容の要点を頭の中で整理する。キーワードについては、自分の言葉で説明できるようにする。(90分)

よりくわしく知りたい点を書き出し、インターネットや図書館で調べ、わかったことをノートしておく。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

平常点(毎回の授業の終わりに記し提出してもらうミニッツペーパーによる)30%、定期試験の成績70%の割合で評価する。平常点において到達目標のうち態度・志向性の到達度を、定期試験において知識・理解および技能の到達度を、それぞれ測る。試験問題および評価基準は、1)8名の講義担当者それぞれの講義内容をどれだけ理解し、具体的な事項をどれだけ知識として定着させたか、2)15回の講義内容をふまえて、現代のヨーロッパと日本との関連を内省するための観点をどれだけ獲得できたか、を問うものとする。

- - - テキスト - - -

使用しない。必要に応じて、各講義担当者が資料を配布(FU_Box内の所定のフォルダにアップロード)する。

- - - 履修上の留意点 - - -

各回のミニッツペーパーは、グループウェア上でのMicrosoft Formsを用いたアンケート形式により提出を求めます。回答フォームのURLを毎回「授業管理」のお知らせによって通知します。

配布資料は、FU_Box内に作る共有フォルダに、授業当日の朝までにアップロードします。各自ダウンロード・印刷のうえ授業に臨んでください。

- - - 授業計画 - - -

- 1 シラバスの説明・オリエンテーション(スタートアップ授業)(辻部・堺)
- 2 ヨーロッパの成り立ち 中世まで(堺)
- 3 美術遺産とイタリア(浦上雅司)
- 4 カトリック教会とイタリア(浦上)
- 5 バルカン半島の歴史 ビザンツ帝国を中心に(西村道也)
- 6 バルカン半島の歴史 オスマン帝国とユーゴスラビアを中心に(西村)
- 7 ドイツの地域生活とスポーツ(藤井雅人)
- 8 スポーツ強国としてのドイツ(藤井)
- 9 中世のゴシック建築 フランスの大聖堂を中心に(太記祐一)
- 10 建築文化のHUBとしての19~20世紀(太記)
- 11 ヨーロッパにおける生物分類と進化論の発展(田上響)
- 12 現代オーストリアの政治体制 成立と発展(東原正明)
- 13 現代オーストリアの政治体制 ナショナリズムの台頭(東原)
- 14 フランスの旧植民地:アルジェリア(辻部)
- 15 講義のまとめと展望・授業アンケートFURIKAの実施(辻部・堺)

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/z67g9m4tledn17gvtj0bjoqvm7eh3gox>)

辻部 大介、堺 雅志、浦上 雅司、西村 道也、藤井 雅人、太記 祐一、田上 響、東原 正明

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.ヨーロッパ社会のありようをヒントに今後の日本社会について考えていくための視座を得ようとする志向性を有している。(DP1-2) (態度・志向性)

2.ヨーロッパについて、地理・歴史・美術・宗教・言語・スポーツ・政治・建築の諸分野にまたがる幅広い知識を獲得している。(DP2-1) (知識・理解)

3.講義で身につけた知識をもとに、自らの考察を明瞭に記述することができる。(DP4-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

三島 健司、泉 哲哉、折居 英章、三角 真、光成 洋二、小村 富士夫、平田 修、新田 よしみ、鄭 磊、葛西 妙子、シャーミン タンジナ、妹尾 八郎
 期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・4 時限 試験時間割：2025/01/22 5 時限

--- 概要 ---

地域(ローカル)の特色や特性を考慮し、国際的(グローバル)に独自性を有して、すなわちグローバルに海外と付き合うグローバル化リテラシーを受講者が修得するために、グローバル化教育に精通した教員と地域特性・専門性・産学連携に精通した教員により、オムニバス形式で海外研修・留学の一助となるように実施する。教員の多くは、起業、経営、海外との交流などの多くの経験があり、実際に携わったそれらの経験を参考に講義します。受講する全学部の学生各自が、地域の歴史的、文化的、経済的、特徴的な素地を学び、将来、グローバルに活躍するための能力について学習する。講義の中では、グローバル化のために国際センターが実施している留学、英語プレゼンコンテストなどのイベントについても説明が行われる。本講義担当教員の泉哲哉、光成 洋二、小村富士夫、妹尾 八郎の4名は企業において国際化などの実務経験を有し、それを活かした講義を行います。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、オムニバス形式で、教員が作成した講義資料や実験動画をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容を確認するために、課題の用紙を配布し、各回の講義終了時に解答を提出します。本授業は、基本的には講義を主とした授業形態で進行しますが、回によっては、授業中に5分程度のグループディスカッションを取り入れる予定です。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(DP1-2)(態度・志向性)

国際性に関して、さまざまな領域での事例を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-1)(知識・理解)

さまざまな領域の国際性に関して学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-2)(態度・志向性)

身につけた国際性に関する知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる技能を有する。(DP4-1)(知識・理解)

身につけた知識やスキルにより共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

シラバスをもとに、海外での仕事、留学に必要な能力・基礎知・手続きと制度・東アジア・東南アジアの特徴について自分の言葉で正確に説明できるように、インターネット等を用いて各自で調べる。(予習)(30分)

講義で習ったことを、各自のこぼで表現できるように記述練習をする。(復習)(180分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価は、定期試験を90%、各回の課題ならびレポートなどを10%として、評価する。

成績評価の基準としては、海外での仕事、留学に必要な能力・基礎知・手続きと制度・東アジア・東南アジアの特徴について自分の言葉で正確に説明できているかを評価の基準とする。また、レポートの課題について、十分なデータを集めたか、そのデータに基づいて自分の見解を明確に記述しているかを評価の基準とする。

--- テキスト ---

講義中に資料を配布する。

--- 履修上の留意点 ---

講義中に配布する資料は、各自がファイルに整理し、講義に必ず持参すること。

--- 授業計画 ---

まず、全体のガイダンスとスケジュール・評価方法について説明を行う。以下のスケジュールで実施する。

1. 「スタートアップ授業」イントロダクション+国際交流の説明のビデオを講義前に各自視聴する。担当：三島健司

[達成目標1]本講義の目的と進め方を通じ、社会における国際化の重要性を理解します。

2. 東アジア・東南アジアと福岡の交流+

親日的な海外の国 担当：三島健司

海外での仕事、留学に必要な能力・基礎知識

3. 化粧品と国際化 担当：泉 哲哉

4. コンピューターとAI技術 担当：折居 英章

5. インターネットとグローバル化 担当：三角 真

6. 国際的企業 担当：光成 洋二

7. 世界の商売 担当：小村富士夫

[達成目標2]国際化とコンピューター技術の関わりを理解します。

8. 世界に広がる福岡大学方式・環境技術 担当：平田 修

[達成目標3]国際化と環境技術の関わりを理解します。

9. コミュニケーションツールとしての英語1 担当：新田 よしみ

10. コミュニケーションツールとしての英語2 担当：新田 よしみ

11. コミュニケーションツールとしての英語3 担当：鄭 磊

12. 国際化と日本語 担当：葛西 妙子

海外出張などの実例、英語プレゼンコンテスト、福岡大学が実施している留学システムなどの説明

[達成目標4]国際化とコミュニケーションの重要性を理解します。

13. 感染症とグローバル化 担当：タンジナ・シャーミン
Tanjina Sharmin

14. 世界のビジネスモデル 担当：妹尾 八郎

15. グローバル科学技術 担当：三島健司

グローバル科学技術について解説し、あわせてFURIKAを実施し、講義全体の総括を行います。

[達成目標5]国際化と環境・科学技術について理解します。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/](https://fukuoka-u.box.com/s/0cdjgizi10e5ak3epys0gtyiyohvhca)

[s/0cdjgizi10e5ak3epys0gtyiyohvhca](https://fukuoka-u.box.com/s/0cdjgizi10e5ak3epys0gtyiyohvhca))

三島 健司、泉 哲哉、折居 英章、三角 真、光成 洋二、小村 富士夫、平田 修、新田 よしみ、鄭 磊、葛西 妙子、シャーミン タンジナ、妹尾 八郎

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（DP1-2）
(態度・志向性)A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.国際性に関して、さまざまな領域での事例を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（DP2-1）(知識・理解)

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

3.さまざまな領域の国際性に関して学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（DP2-2）(態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

4.身につけた国際性に関する知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる技能を有する。（DP4-1）(知識・理解)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

5.身につけた知識やスキルにより共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性（DP4-2）(態度・志向性)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

鈴木 孝将、Kenji Mishima, Rai Tei, Yoshimi Nitta, Mikio Ouchi, Sharmin Tanjina, Atsuo Suga, Shinya Suzuki, Richard Smith, Takashi Egawa, Sachiyo Hoshino, Keiji Yanase
 期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義(外国語による) 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：後期：金・5 時限 試験時間割：2025/01/22 5 時限

- - - 概要 - - -

This is an omnibus format course taught in English. Various faculty members of Fukuoka University and external lecturers will give lectures based on their academic expertise and specialties (e.g. area characteristics, academic-industrial partnerships, and so on), and students will be able to acquire "glocal literacy" by understanding area characteristics and global uniqueness of their own. Instructors have broad experience in start-up business, business management, and/or international exchanges, and each student will learn local history, culture, economics, and special characteristics with the instructors and understand what they need for their "global" career in the future.

- - - 授業の進行・方法 - - -

This lecture is proceeded in a lecture format.

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

Students can explain communication abilities required to study or work abroad.
 (DP1-2)(技能)

Students can acquire basic knowledge on daily life required to study or work abroad.(DP2-1)(知識・理解)

Students can have an interest and an inquisitive mind on the international community and the role of Japan(DP4-1)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

Students need to study materials and do research on the Internet at home to prepare essays related to lectures.(90分)

Students need to review the lectures with materials at home to understand the important points.(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

Based on the essays and assignments submitted for each lecture and the results of semester final examinations, communication skills, basic knowledge about living and studying abroad, and attitudes and intentions toward internationalism are evaluated. The evaluation criteria for the submitted assignments are whether sufficient data has been collected and whether the students have clearly stated their own views based on these data. Students are evaluated based on the semester final exams (90%) and essays and assignments from each lecture (10%).

- - - テキスト - - -

Materials will be distributed in class. Students need to file distributed materials and bring them to class.

- - - 履修上の留意点 - - -

- - - 授業計画 - - -

1. Syllabus description and introduction as Start UP (Takayuki Suzuki)
2. Communication learning from pro-Japanese countries (Kenji Mishima)
3. Language acquisition in internationalization (Rai Tei)
4. Power of Writing (Yoshimi Nitta)
5. Study in Australia (Mikio Ouchi)
6. Globalization and the infectious diseases (Sharmin Tanjina)
7. Global science (Mikio Ouchi)
8. Competencies needed to work abroad (Atsuo Suga)
9. Environmental technology in internationalization (Shinya Suzuki)
10. Carbon-neutral science and technology (Yoshimi Nitta)
11. Nuclear safety and radiation monitoring (Richard Smith)
12. Preparation for domestic and foreign disasters from the standpoint of a pharmacist (Takashi Egawa)
13. Urbanization in Asia and the Pacific: Issues and Solutions (Sachiyo Hoshino)
14. Data society and internationalization (Keiji Yanase)
15. Electronics technology and internationalization, and class questionnaire FURIKA (Takayuki Suzuki)

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/
 mxavtox1nu7s480kgn1lkgpzw4be9vek)

鈴木 孝将、Kenji Mishima, Rai Tei, Yoshimi Nitta, Mikio Ouchi, Sharmin Tanjina, Atsuo Suga, Shinya Suzuki, Richard Smith, Takashi Egawa, Sachiyo Hoshino, Keiji Yanase

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.Students can explain communication abilities required to study or work abroad.
(DP1-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.Students can acquire basic knowledge on daily life required to study or work abroad.
(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

3.Students can have an interest and an inquisitive mind on the international community and the role of Japan (DP4-1) (技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

熊丸 憲男、西原 宏

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

高等専門学校でロボットコンテストやソーラーボート大会などでものづくりの指導を行ってきた経験をもとに、ものづくりにおける多面的な考え方や、企画から評価までの一連の過程を指導する。

講義の目的は、文系と理系の学生が共同で、「ものづくりセンター」を使ったものづくり体験を通して企画・制作力を学ぶことである。

具体的には、文系と理系の学生が混在する2~5人程度の小グループに分かれて、グループごとに商品の企画、製作、改良を行った後に中間報告を行い、再度の改良の後に製品プレゼンテーションを行う。製品の企画から開発、改良、プレゼンテーションに至る一連の商品開発の過程を通じて、企画力・制作力の学習を行う。また、文系と理系の学生が混在したグループの学習で他分野の考え方に触れることによって、広い視野で問題解決を模索する方法についても学習する。

文系の学生は、将来、企業でマーケティング担当者として働くことを意識して、授業に参加することになる。これは、授業の際に完全な作業分担をするという意味ではなく、例えば、商品の企画を行う際は消費者のニーズを考えて、グループ内の意見をまとめていく役割を果たすという意味である。同様に、プレゼンテーションを行う際は、開発した製品の魅力を社会的なニーズという点を重視してまとめていく役割を果たす。製作の際は理系の学生の補助を行うことが多くなるが、部分的には主導して製作しても構わない。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、工学部ものづくりセンターで行う。

最初に発想法などを学習してグループ分けを行う。1つのグループは2~5名で構成するが、1名以上の文系の学生と1名以上の理系の学生を含んでいることとする。つまり、全グループに文系と理系の学生が含まれることを必須とする。

グループができたら、マーケット調査、及び、何を製作するかディスカッションを行う。マーケット調査は文系の学生が主導して行うが、理系の学生も参加して理系視点での意見を出すこと。何を製作するかに関しては、商品そのものを製作できるのに越したことはないが、機材、技術面で不足することが考えられるため、主要となる機能を再現できる試作品でも構わない。製作に入る前に、担当教員、またはものづくりセンターの教育技術職員に確認を行うこと。

製作は理系の学生が主導して行うが、文系の学生も参加をすること。製作を行う際は、安全に十分に留意して行い、技術職員の指示に従うこと。また、材料についてはものづくりセンターで準備するが、入手困難なものや時間がかかるものがあるので早めに相談すること。

中間発表、及び最終発表は、評価にプレゼンテーションを含んでいるため、全員が発表を行う必要がある。グループで1つの発表を行うが、文系、理系の両面の内容を発表者を変えながら行う。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

卒業後に就職して業務を行う際だけでなく、自らの生活においても創意工夫により問題解決を行う手始めとして、消費者のニーズを踏まえた目標設定、改良ができること。(DP1-2)(態度・志向性)

ものづくりを通して、問題発見から問題解決、マーケティングに至るまでの一連の流れの基礎知識を持つことにより、問題解決のための多角的な視野を持つこと。(DP2-1)(知識・理解)

商品の企画・製作に必要な様々な知識や技能を活用し、問題解決のために所属する学部の特長を活かした協力ができること。(DP4-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

マーケティング調査を適宜行うこと(90分)

製作が間に合わない場合は、追加で行うこと(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

- ・消費者のニーズを踏まえた製品企画を行うことができたか(30%)
- ・製品企画に基づいて試作品を製作・改良することができたか(50%)
- ・製品の特長をアピールするプレゼンテーションが行えたか(20%)

「定期試験期間中に筆記試験は実施しません。よって再試験も実施しません」

--- テキスト ---

適宜、プリントを配布する。

--- 履修上の留意点 ---

ものづくりセンターを利用するには、ものづくりセンターの利用ガイダンスを受講する必要がある。規程上、利用ガイダンスを受講していない学生であっても履修登録を妨げることはできないが、履修しても授業に参加することができないので評価は0点となる。必ず、第2回の授業までに利用ガイダンスを受講すること。また、各工作機械ごとに安全講習が義務付けられているため、製作を開始する前に必要な工作機械の安全講習を受講しておくこと。

なお、利用ガイダンスは予約制であり人数が制限されるため、早めに申し込みと受講を行うこと。利用ガイダンスの予約は「福岡大学ものづくりセンター」のサイトで行うことができる。利用ガイダンスの講習は、1時間程度で終了する。

--- 授業計画 ---

- 第1回 スタートアップ授業(西原、熊丸)
- 第2回 ガイダンス、発想法I(西原、熊丸)
- 第3回 発想法II、グループ分け(熊丸)
- 第4回~第6回 ディスカッション、製作(熊丸)
- 第7回~第11回 製作(熊丸)
- 第12回 プレゼンテーション1：中間発表(熊丸)
- 第13回、第14回 製作(熊丸)
- 第15回 プレゼンテーション2：最終発表(西原、熊丸)、「授業アンケートFURIKAの実施」

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/oiqtt6iy793mwb508veu1h088a8neseo>)

熊丸 憲男、西原 宏

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.卒業後に就職して業務を行う際だけでなく、自らの生活においても創意工夫により問題解決を行う手始めとして、消費者のニーズを踏まえた目標設定、改良ができること。(DP1-2) (態度・志向性)

2.ものづくりを通して、問題発見から問題解決、マーケティングに至るまでの一連の流れの基礎知識を持つことにより、問題解決のための多角的な視野を持つこと。(DP2-1) (知識・理解)

3.商品の企画・製作に必要な様々な知識や技能を活用し、問題解決のために所属する学部の特長を活かした協力ができること。(DP4-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

熊丸 憲男、西原 宏

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

高等専門学校でロボットコンテストやソーラーボート大会などでものづくりの指導を行ってきた経験をもとに、ものづくりにおける多面的な考え方や、企画から評価までの一連の過程を指導する。

講義の目的は、文系と理系の学生が共同で、「ものづくりセンター」を使ったものづくり体験を通して企画・制作力を学ぶことである。

具体的には、文系と理系の学生が混在する2~5人程度の小グループに分かれて、グループごとに商品の企画、製作、改良を行った後に中間報告を行い、再度の改良の後に製品プレゼンテーションを行う。製品の企画から開発、改良、プレゼンテーションに至る一連の商品開発の過程を通じて、企画力・制作力の学習を行う。また、文系と理系の学生が混在したグループの学習で他分野の考え方に触れることによって、広い視野で問題解決を模索する方法についても学習する。

理系の学生は、将来、企業で開発の担当者として働くことを意識して、授業に参加することになる。これは、授業の際に完全な作業分担をするという意味ではなく、例えば、商品の製作を行う際にグループの先頭になって行き、文系の学生にも製作の一部を割り振るなどの、いわゆる工程管理の役割を果たすという意味である。同様に、プレゼンテーションを行う際は、開発した製品の工学的な側面を重視してまとめていく役割を果たす。試作品の企画を行う際も、理系の視点から意見を述べること。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、工学部ものづくりセンターで行う。

最初に発想法などを学習してグループ分けを行う。1つのグループは2~5名で構成するが、1名以上の文系の学生と1名以上の理系の学生を含んでいることとする。つまり、全グループに文系と理系の学生が含まれることを必須とする。

グループができたら、マーケット調査、及び、何を製作するかディスカッションを行う。マーケット調査は文系の学生が主導して行うが、理系の学生も参加して理系視点での意見を出すこと。何を製作するかに関しては、商品そのものを製作できるのに越したことはないが、機材、技術面で不足することが考えられるため、主要となる機能を再現できる試作品でも構わない。製作に入る前に、担当教員、またはものづくりセンターの教育技術職員に確認を行うこと。

製作は理系の学生が主導して行うが、文系の学生も参加をすること。製作を行う際は、安全に十分に留意して行き、技術職員の指示に従うこと。また、材料についてはものづくりセンターで準備するが、入手困難なものや時間がかかるものがあるので早めに相談すること。

中間発表、及び最終発表は、評価にプレゼンテーションを含んでいるため、全員が発表を行う必要がある。グループで1つの発表を行うが、文系、理系の両面の内容を発表者を変えながら行う。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

卒業後に就職して業務を行う際だけでなく、自らの生活においても創意工夫により問題解決を行う手始めとして、消費者のニーズを踏まえた目標設定、改良ができること。(DP1-2)(態度・志向性)

ものづくりを通して、問題発見から問題解決、マーケティングに至るまでの一連の流れの基礎知識を持つことにより、問題解決のための多角的な視野を持つこと。(DP2-1)(知識・理解)

商品の企画・製作に必要な様々な知識や技能を活用し、問題解決のために所属する学部の特長を活かした協力ができること。(DP4-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

マーケティング調査を適宜行うこと(90分)

製作が間に合わない場合は、追加で行うこと(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

- ・消費者のニーズを踏まえた製品企画を行うことができたか(30%)
- ・製品企画に基づいて試作品を製作・改良することができたか(50%)
- ・製品の特長をアピールするプレゼンテーションが行えたか(20%)

「定期試験期間中に筆記試験は実施しません。よって再試験も実施しません」

--- テキスト ---

適宜、プリントを配布する。

--- 履修上の留意点 ---

ものづくりセンターを利用するには、ものづくりセンターの利用ガイダンスを受講する必要がある。規程上、利用ガイダンスを受講していない学生であっても履修登録を妨げることはできないが、履修しても授業に参加することができないので評価は0点となる。必ず、第2回の授業までに利用ガイダンスを受講すること。また、各工作機械ごとに安全講習が義務付けられているため、製作を開始する前に必要な工作機械の安全講習を受講しておくこと。

なお、利用ガイダンスは予約制であり人数が制限されるため、早めに申し込みと受講を行うこと。利用ガイダンスの予約は「福岡大学ものづくりセンター」のサイトで行うことができる。利用ガイダンスの講習は、1時間程度で終了する。

--- 授業計画 ---

- 第1回 スタートアップ授業(西原、熊丸)
- 第2回 ガイダンス、発想法I(西原、熊丸)
- 第3回 発想法II、グループ分け(熊丸)
- 第4回~第6回 ディスカッション、製作(熊丸)
- 第7回~第11回 製作(熊丸)
- 第12回 プレゼンテーション1：中間発表(熊丸)
- 第13回、第14回 製作(熊丸)
- 第15回 プレゼンテーション2：最終発表(西原、熊丸)、「授業アンケートFURIKAの実施」

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/s5jmwca0j6uy8mjqc71apism9f28ynzq>)

熊丸 憲男、西原 宏

全学部学科: DP1-2,DP2-1,DP4-1 DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.卒業後に就職して業務を行う際だけでなく、自らの生活においても創意工夫により問題解決を行う手始めとして、消費者のニーズを踏まえた目標設定、改良ができること。(DP1-2) (態度・志向性)

2.ものづくりを通して、問題発見から問題解決、マーケティングに至るまでの一連の流れの基礎知識を持つことにより、問題解決のための多角的な視野を持つこと。(DP2-1) (知識・理解)

3.商品の企画・製作に必要な様々な知識や技能を活用し、問題解決のために所属する学部の特長を活かした協力ができること。(DP4-1) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)